

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第132集

NO ZA WA KA N SE KI

野 沢 館 跡 VI

—長野県佐久市大字野沢野沢館跡VI発掘調査報告書—

2005.3

佐 久 市
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第132集

NO ZA WA KA N SE KI

野 沢 館 跡 VI

—長野県佐久市大字野沢野沢館跡VI発掘調査報告書—

2005.3

佐 久 市
佐久市教育委員会

野沢館跡 VI の調査について

野沢市街地の真ん中に3 mもの高さを持つ大規模な土塁と堀に囲まれた方形の館があります。市街地の中心にありながら数百年以上もの長い間、この土塁が残されてきたことは大変重要なことです。中世の居館址として昭和40年に「伴野城跡」という名称で、長野県史跡に指定されました。野沢平一帯、さらには佐久地方の平安時代末から中世にかけての歴史を明らかにしていく上で、『一遍上人絵伝』や他の歴史資料と共にこの館跡は、貴重な存在です。

近年、発掘調査がこの館跡周辺でも多くなってきました。発掘調査の増加は、館跡の範囲、造られた時期、変遷していく様子などの解明に多くの資料を提供しています。江戸時代の絵図や残された文献資料、現状の地積図や周辺の水路との照合で、館跡の主郭のほかに周囲に展開していたであろう外郭が予想されていました。

平成14年の、「まちづくり総合支援事業城山公園整備」事業に先立つ確認調査で、今見ることができる土塁は戦国時代に築造されたもの、土塁を巡る水路は堀であったこと、主郭の出入り口と土の橋の存在が実際に確認されました。

今回の調査では、堀と考えられる溝が2箇所からみつかりました。外郭の施設である堀や土塁があると予想されていた場所からの発見であって、今後の館跡の実体解明に大きな資料となります。













39・40. 陶器 灰釉皿 瀬戸・美濃 18c
 41・42. 陶器 灰釉せんじ茶碗 瀬戸・美濃 18c
 43. 陶器 鉄釉碗か鉢 瀬戸・美濃 18c
 44. 陶器 灰釉灯明皿 瀬戸・美濃 18c
 42~52. 陶器 灰釉呉器手碗 唐津 18c
 53. 磁器 染付德利 伊万里 18c
 54~56. 陶器 灰釉鉢 川越石焼か? 18c後半
 57. 陶器 染付陶胎碗 伊万里 18c後半~19c前半
 58~90. 磁器 染付碗・皿 伊万里 近世
 91. 磁器 染付皿 伊万里 19c
 92~94. 磁器 染付碗 伊万里 19c
 95. 陶器 鉄釉台脚付灯明具 在地 幕末
 96~100. 陶器 錆釉灯明皿 在地 幕末~近代
 101. 陶器 錆釉蓋 在地 幕末~近代

例 言

- 1 本書は、佐久市が行う野沢本町沿道整備土地区画整理事業に伴う、野沢館跡Ⅵ調査報告書ある。
- 2 調査原因者 佐久市 調査主体者 佐久市教育委員会
- 4 遺跡名及び所在地 野沢館跡Ⅵ (NNZ Ⅵ) 佐久市大字野沢字居屋敷62-1・2・3・6・8、
58-1
- 5 調査期間及び面積 発掘調査 平成15年11月17日～12月26日 平成16年3月9日～3月19日
整理調査 平成16年4月1日～平成17年1月20日
調査面積 380㎡ 開発面積 450㎡
- 6 長野県埋蔵文化財センター河西克造氏には数々のご指導をいただき、陶磁器類等については長野県埋蔵文化財センター市川隆之氏のご教示をいただいた。
- 7 本遺跡の発掘調査は佐々木・三石・林が担当した。整理作業・遺物実測・遺物写真撮影・報告書の編集は堺が、執筆は林が担当した。
- 8 出土遺物及び調査に関する資料は、佐久市教育委員会文化財課の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略号は、竪穴状遺構T a・土坑D・ピットP・堀址M・特殊遺構Tである。
2. 挿図の縮尺は、遺構-1/80、遺物-1/4を基本とした。図中に縮尺とスケールを明記した。
3. 土層及び遺物胎土の色調は、1999年版『新版 標準土色帖』に基づいた。
4. 写真図版中の遺物番号は挿図における遺物番号と同一であり、縮尺は図版中に明記した。
5. 遺物観察表中における()は推定値、〈 〉は残存値であり、-は計測不能を表している。

遺構	地山断面		焼土		灰		石	
遺物	須恵器断面		黒色処理		釉		すり面	

目 次

巻頭カラー図版

例 言・凡 例

第Ⅰ章 調査の概要

- 第1節 調査の経緯と経過…………… 1
- 第2節 調査組織…………… 1
- 第3節 調査日誌…………… 1

第Ⅱ章 野沢館跡の立地と概要

- 第1節 野沢館跡の立地…………… 2
- 第2節 野沢館跡の概観…………… 4

第Ⅲ章 遺構と遺物

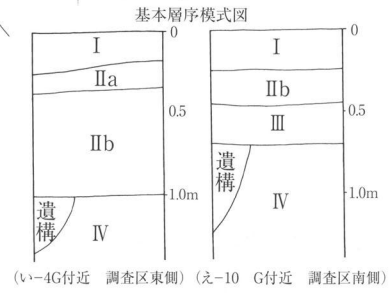
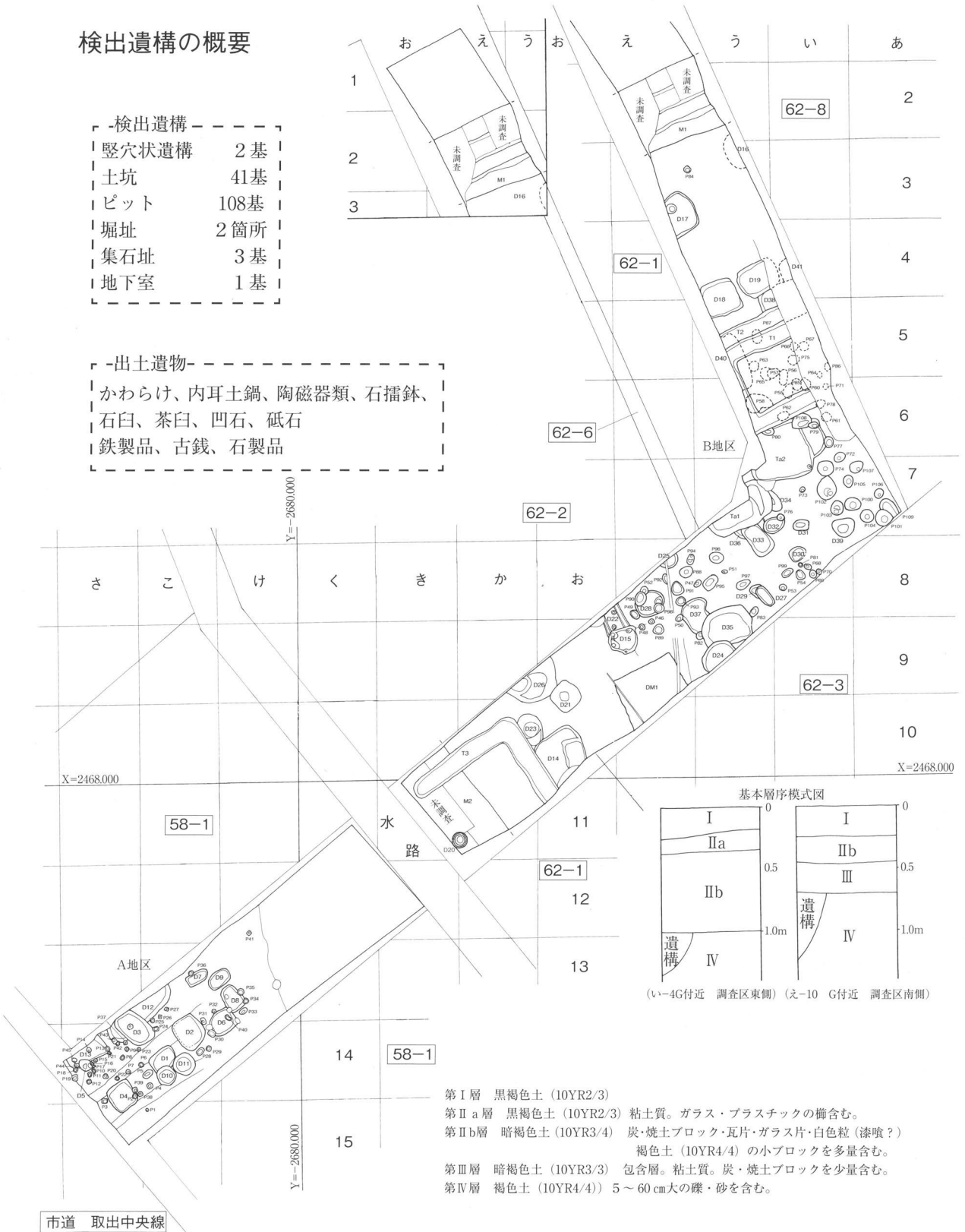
- 第1節 遺構…………… 5
 - 1 竪穴状遺構…………… 5

- 2 土坑…………… 6
- 3 ピット…………… 11
- 4 堀址…………… 18
- 5 集石址…………… 22
- 6 地下室…………… 22
- 第2節 遺物…………… 22
- 第Ⅳ章 まとめ…………… 38

検出遺構の概要

- 検出遺構 -	
縦穴状遺構	2基
土坑	41基
ピット	108基
堀址	2箇所
集石址	3基
地下室	1基

- 出土遺物 -	
かわらけ、内耳土鍋、陶磁器類、石搦鉢、石臼、茶臼、凹石、砥石、鉄製品、古銭、石製品	



- 第Ⅰ層 黒褐色土 (10YR2/3)
- 第Ⅱa層 黒褐色土 (10YR2/3) 粘土質。ガラス・プラスチックの櫛含む。
- 第Ⅱb層 暗褐色土 (10YR3/4) 炭・焼土ブロック・瓦片・ガラス片・白色粒 (漆喰?) 褐色土 (10YR4/4) の小ブロックを多量含む。
- 第Ⅲ層 暗褐色土 (10YR3/3) 包含層。粘土質。炭・焼土ブロックを少量含む。
- 第Ⅳ層 褐色土 (10YR4/4) 5~60cm大の礫・砂を含む。

第1図 野沢館跡Ⅵ調査全体図 (1:250)・基本層序模式図

第 I 章 調査の概要

第 1 節 調査の経緯と経過

野沢館跡は佐久市大字野沢・原に所在し、千曲川左岸に広がる標高675m内外の河岸低段丘に展開する。平安時代末期から中世の居館址として、昭和40年に「伴野城跡」と称して長野県史跡に指定されている。

伴野城跡は「鎌倉時代以来伴野氏の館跡で後の野沢城の主郭にあたる。東西74～85m、南北110mの長方形で周囲に用水路が巡り、その内側に沿って西・北・東の三方に土塁を残している。室町から戦国時代に伴野氏が二の郭・三の郭などを設け堀を巡らすなどして規模を拡大した。江戸時代以降は官庫・陣屋・岩村田藩出張所など官公地として存続した。」と『佐久市志』に記述されている。

平成3年度野沢館跡Ⅰ・Ⅱの調査で、中世の土坑・柱穴址・石組遺構等が検出されている。また、平成11年度薬師寺遺跡では近世の寺院と中世の園池が調査され、平成13年度の野沢館跡Ⅲ、平成15年度の野沢館跡Ⅴでは土坑・柱穴址が調査されている。平成14年度の「まちづくり総合支援事業城山公園整備」に伴う野沢館跡Ⅴの調査では、虎口・土橋・主郭の堀のプラン（一部）が確認された。

今回、佐久市區画整理課が行う「野沢本町沿道整備土地地区画整理事業」に伴い、佐久市教育委員会が発掘調査を実施する運びとなった。



第 2 図 野沢館跡Ⅵ・周辺遺跡 (1:100,000)

第 2 節 調査組織

調査主体者	佐久市教育委員会	教 育 長	高 柳 勉		
事務局	教育次長	赤羽根寿文			
	文化財課長	嶋崎 節夫 (平成15年度)	小林 正衛 (平成16年度)		
	文化財係長	高村 博文			
	文化財係	林 幸彦	三石 宗一 (平成15年度)	須藤 隆司	小林 眞寿
		富沢 一明	上原 学	赤羽根太郎	出澤 力
調査体制	調査担当者	三石 宗一 (平成15年度)	林 幸彦		
	調査主任	佐々木宗昭			
	調査副主任	堺 益子			
	調査員	浅沼ノブ江	岩下 友子	柏木 貞夫	柏原 松枝
		小林喜久子	小林百合子	中島フクジ	中條 悦子
		羽田 貴恵	花岡美津子	平林 泰	堀籠 滋子
		真嶋 保子	山浦 豊子	和久井義雄	渡辺 長子

第 3 節 調査日誌

平成15年11月17日	B地区機械で表土剥ぎ開始。		3月10日	A地区遺構掘り下げ・実測。
	遺構確認精査。		3月19日	A地区全体写真撮影。
11月21日	遺構掘り下げ・実測。			A地区器材撤収、現場終了。
11月25日	B地区全体写真撮影。		平成16年4月5日	室内作業開始。遺物接合・
12月26日	B地区器材撤収、現場終了。			遺物実測・遺物写真撮影
平成16年3月9日	A地区機械で表土剥ぎ開始。		12月～2月	原稿執筆。報告書刊行。

第Ⅱ章 野沢館跡の立地と概要

第1節 野沢館跡の立地

野沢館跡は、千曲川以西、佐久市南部の中心部に位置し、千曲川の西約300mの沖積地に存在しており標高約675mを測る。この付近は佐久平中心部の沖積氾濫源の堆積地帯で、地層は黄褐色の砂質細粒粘土層とその下部に大小の円礫を多量に含む砂礫層が観察され、数メートルの厚層であることは付近の古井戸から推定される。

これらの堆積当時の状態を考えると、千曲川の大洪水大氾濫期が長く続き流路は至る所を移動し、上流の八ヶ岳・佐久山地からの多量な大小各種の砂礫を佐久平一面に溢流堆積したもので各所に自然堤防なども形成した。野沢平のこの辺りは土壌も肥沃であり古くから用水施設も完備され、冷旱害もない水田適地である。野沢館跡の堀へ引水した水路が起源であると伝えられる八か用水（野沢堰）は、野沢町の古村名（今の大字）高柳・鍛冶屋・本新町・取出・野沢・原・三塚・跡部の八ヶ村を潤すので命名されたもので、臼田町稲荷山下で千曲川から取水し、道川・柳沢用水・一本柳用水に分水して野沢平の田用水として利用されている。

（佐久埋蔵文化財調査センター調査報告書第13集『薊沢 蔦石』より抜粋、一部加除）

野沢館跡が所在する沖積低地や西側の台地上には、数多くの遺跡が見られる。（第2図）西側の山地と台地上からは、先土器時代の立科F遺跡、縄文時代前期の後沢遺跡・榛名平遺跡、中期後半の中村遺跡・榛名平遺跡・筒村B遺跡・山法師B遺跡、後期の瀧の下遺跡などが調査されている。沖積低地からは、集落は発見されていない。

弥生時代では片貝川西岸の台地上で、中期・後期の後沢遺跡・竹田峯遺跡、後期の榛名平遺跡・舞台場遺跡が調査されている。長い間千曲川と片貝川に挟まれた沖積微高地上での、弥生時代の集落は知られていなかった。が、平成15年によく中道遺跡Ⅱや中道遺跡群（試掘）、平成16年に宮浦遺跡群・平馬塚遺跡群で後期の竪穴住居址や溝址が検出された。

古墳時代の集落は、沖積低地で圃場整備に伴い中道遺跡・市道遺跡・三塚町田遺跡・跡部町田遺跡・三塚鶴田遺跡・上桜井北遺跡・舞台場遺跡などが調査されている。台地上には榛名平遺跡・後沢遺跡がある。近年では道路改良事業（国道141号）など各種の開発に伴い、谷筋の台地上で新海坂遺跡・村上遺跡、沖積微高地上で跡部儘田遺跡・跡部町田遺跡Ⅱ・寺添遺跡・市道遺跡Ⅱ・宮添遺跡・中道遺跡Ⅱ・東五里田遺跡・市道遺跡Ⅲの調査が実施され、弥生時代末から古墳時代初頭・中期後半・後期の集落址が調査されている。

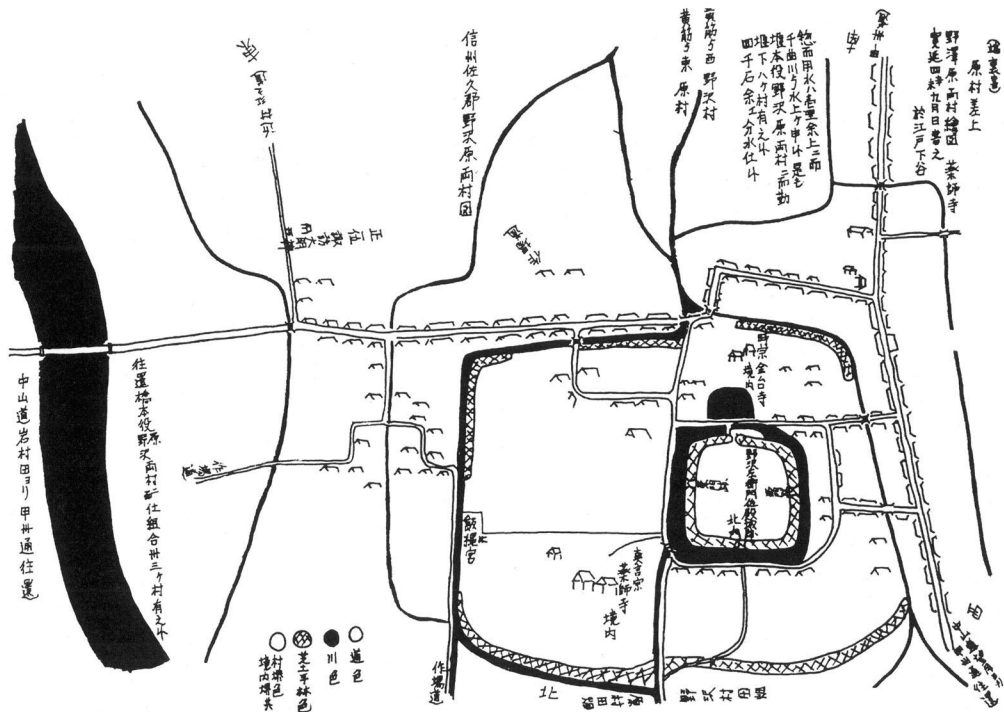
佐久地域では数少ない生産遺跡の調査が根岸の石附窯址群で行われている。7世紀後半の須恵器窯2基と木炭窯5基が検出されている。

古墳は、佐久市志編纂事業に伴う瀧の峯古墳群、後期から終末期に属する横穴式石室の榛名平1号墳と坪の内古墳が調査されている。

奈良・平安時代の集落は、台地上では榛名平遺跡・後沢遺跡が、沖積低地からは古墳時代とほぼ同様な遺跡で集落址が確認されている。道路改良事業（国道141号）に伴う調査範囲は、広大な沖積微高地上の大規模なトレンチ状調査となり、さらに南に延長され新たな遺跡が発見されている。中道遺跡からは奈良三彩の蓋と和同開珎、榛名平遺跡からは奈良二彩の蓋が出土している。

佐久市内の遺跡調査は開発頻度により旧浅間町に集中し、膨大な資料が蓄積されている。比べて旧野沢町では調査例も少なく面積的にも小規模である。しかしながら、調査事例の増加に伴い、特に道路改良事業（国道141号）に伴う調査結果は、千曲川と片貝川に挟まれた広大な沖積低地に相当規模な古代遺跡群の存在を窺わせるものである。

鎌倉時代以降になると野沢館跡や前山城跡が伴野氏によって築かれたとされ、「一遍上人絵伝」にも当時の伴野氏館の様子が描かれている。また、他の佐久市域と同様に西側山地の尾根状には、日向



第3図 伴野城跡絵図（『長野県の中世城館跡-分布調査報告書-』より転載）



第4図 周辺遺跡分布図（1：5000）

城跡・宝生寺山砦・前山古城跡・荒城跡・荒山城跡などが築かれている。

中世の遺跡調査例も増加している。平成5・6年度には、蓼科山麓の西から東へ傾斜する丘陵地形の先端台地上の根岸榛名平遺跡が調査された。サンピア佐久建設に伴い52,000㎡という広大な面積の調査対象地から、13～17世紀初頭の多くの遺構と遺物が発見された。13世紀代には竪穴状遺構を中心とし、15世紀代から溝に囲まれた建物址群（屋敷地）が検出された。さらに、周辺地域には調査類例の少ない14世紀後半～16世紀に築造された65基もの墳墓群が発見された。火葬墓が15基、集石土壙墓が26基、土坑墓26基であった。

同じく根岸の虚空蔵山狼煙台（山城址）が、ふるさと自然のみち事業により破壊されることになり調査された。虚空蔵山山頂の狼煙台とされる山城址は、尾根先端部を縦堀により隔絶し北と西に土塁を構築している。遺構は土塁に囲まれた平坦部分が北側に緩く傾斜する面から、3段に構築された竪穴状遺構が検出された。土師質土器や石臼が出土し、短期間でない人の駐留が想定されている。

桜井の石堂遺跡からは、15世紀の炉址を伴う竪穴状遺構1基とかわらけ・陶磁器や石搗鉢等が検出されている。平成16年度に調査された平馬塚遺跡Ⅰからも14～15世紀の竪穴状遺構・土坑・ピット群が発見されている。

第2節 野沢館跡の概観

佐久市野沢市街地の金台寺北側にある城館跡は、「伴野氏館跡」「野沢城跡」「伴野城跡」「野沢館跡」などと従来複数の名称で呼ばれている。が、近年の調査では『佐久市遺跡詳細分布調査報告書』に依り「野沢館跡」と呼称している。

今回調査を行った野沢館跡Ⅵは佐久市大字野沢字居屋敷62-1他に所在する。昭和40年に長野県史跡に指定された土塁と水路が巡る野沢館跡の主郭に対して、外郭の土塁や堀の想定されている一帯である。大伴神社をはじめ南に金台寺、東に成田山薬師寺といった寺社に囲まれた野沢市街地の中心部に位置している。

「伴野城跡」として長野県史跡に指定されているのは東西74～85m、南北110mの範囲内で、現在は周囲に用水路が巡り西・北及び東の一部に高さ約3mの土塁が残っている。

野沢館跡のはじまりについては二つの見方があるとされ、^(註1)「ひとつは野沢を名字とした人物として、平安末期、木曾義仲に従った野沢太郎が知られていることから、平安末期この地には野沢氏が住んでいたと考え、野沢城はこの野沢氏にはじまるとするものである。そして鎌倉幕府初期に甲斐から佐久伴野庄の地頭に補任された小笠原長清から、その子時長に引き継がれたと考える。もう一つは、小笠原長清の子で伴野氏を名乗った時長かその子の時直が築いたとするものである。」その後、伴野氏と大井氏の争い、伴野一族内の争いの中で、防衛強化の必要から現在の野沢館跡を主郭として外郭を設けて城郭としての形態を整えるようになったとされている。^(註2)寛延四年（宝暦元、一七五一）の絵図を第3図に示した。江戸時代以降の野沢館跡については、「江戸時代になってからの野沢城址は、先ず小諸に在城して佐久を領した仙石氏が、ここに米倉を建てて年貢米の貯蔵に当てた。その後江戸の中期佐久の大部分が幕府領となった当時、代官の陣屋がこの城地に設置され（代官馬場源兵衛）又米倉も置かれて貢米の貯蔵が行われた。享保三年（一七一八）役所を廃止するに当たって、ここを村の郷倉地に下付したという。明治になり、二十二年にこの館跡に城山館が建てられ、更に四十四年には村社諏訪社を館跡の一角に移し、以前からここに在った八幡社と合祠し、旧庄名に因んで大伴神社と称した。以来この館跡は、大伴神社の境内地並びに公園となって現在に及んでいる。」^(註3)と記載されている。近年では昭和36年に野沢会館が建設され、昭和51年からは城山公園（都市公園）として市民の憩いの場として広く利用され今日に至っている。今回の調査地付近は、昭和58年に行われた佐久市遺跡詳細分布調査によって主郭・外郭を中心に「野沢館跡」として周知され、本調査の他に「薬師寺遺跡」（平成11年度）・「野沢館跡Ⅲ」（平成13年度）・野沢館跡Ⅳ（平成14年度）などの発掘調査が実施されている。

註1) 郷道 哲章 1993 「第三章 第一節 二武士と館」『佐久市志 歴史編(二) 中世』

註2) 木内 寛 1993 「第六章 第五節 二城館と集落」『佐久市志 歴史編(二) 中世』

註3) 平林 富三 1972 「伴野氏館跡（野沢城）来歴」『資料第一 伴野氏館跡来歴 伴野氏について』

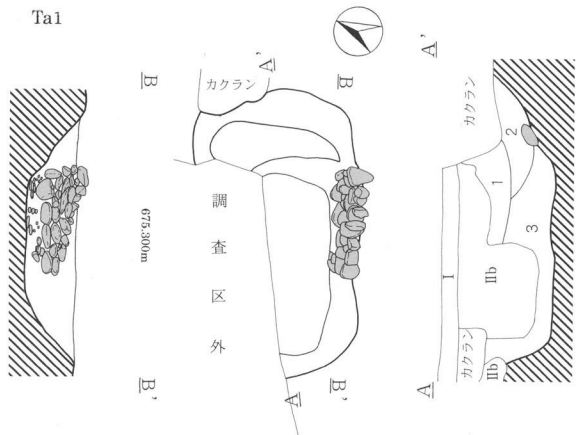
第Ⅲ章 遺構と遺物

第1節 遺構

B地区はほぼ全域を全体層序Ⅱ層（近代・現代の陶磁器・瓦、）の整地層が覆っており、近世・中世の遺構上部を破壊していた。

1. 竪穴状遺構

東側にテラス状の張り出し部を有するものが、B地区から2基検出された。



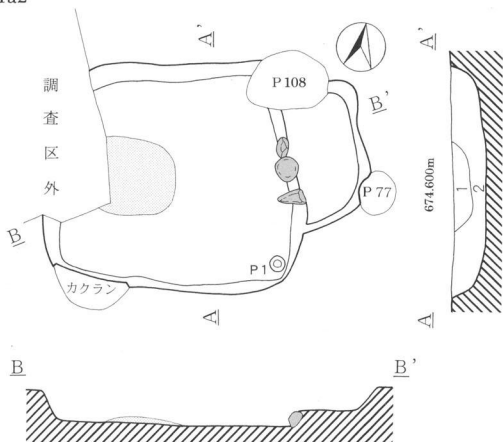
Ta1の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘質土。礫 (2~10cm) を含む。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質土。礫 (2~10cm) を含む。
3. 黒褐色土 (10YR3/2) 灰黄褐色 (10YR 4/3) の小ブロックを多量含む。礫 (2~10cm) を含む。

Ta1

図版番号	図版6-50・51		
検出位置	B地区 う-7		
重複状態	北西側 調査区外 カクランに壊され、D33・D34・D36を切る。		
平面形態	長方形		
規模	壁長	壁高	
北壁側	-	-	
東壁側	-	-	
南壁側	196	67.5 ~ 78.5	
西壁側	-	61 ~ 67	
張り出し部	位置	東壁	形状
	長さ×幅×深さ		長方形
面積	6.448㎡		
長軸方位	N-63° - E		
出土遺物	磁器 染付皿 (近世) (陶磁器50)	磁器 染付碗 (近世) (陶磁器55)	磁器 染付皿 (19C) (陶磁器63)
	内耳 (中世)		

Ta2



Ta2の土層説明

1. 暗褐色土 (10YR3/3) 砂質シルトブロックを多量、炭化物を微量含む。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物を少量、小石を多量含む。

0 (1:80) 2m

Ta2

図版番号	図版6-52		
検出位置	B地区 い・う-6・7		
重複状態	北西側 調査区外 カクラン・P77・P79・P80・P108に壊される。		
平面形態	長方形		
規模	壁長	壁高	
北壁側	-	24 ~ 35	
東壁側	248	23 ~ 46	
南壁側	272	23 ~ 39	
西壁側	-	36 ~ 37	
張り出し部	位置	東壁北寄り	形状
	長さ×幅×深さ		長方形
面積	9.504㎡		
長軸方位	N-76° - E		
出土遺物	かわらけ (中世) 内耳 (中世)		

第5図 Ta1・Ta2号竪穴状遺構実測図

Ta1号竪穴状遺構

本址はB地区う-7グリッドから検出され、北西側が調査区域外に伸びる。東の一部を攪乱に壊され、覆土の多くも近代の整地の際に大きく攪乱されている。D33・D34・D36号土坑より新しい。

形態は東西が長軸となる長方形を呈する。南壁の規模は長さ1.96m壁高0.67mを測り、検出部分の底面面積は1.52㎡である。底面は、貼床はみられず軟弱である。

長軸方位はN-63°-Eを示す。覆土は人為的な堆積状況であった。

D33・D36号土坑と重複する南壁には、壁の補強のためと思われる石積みが見られた。5~30cm大の川原石が、東西1.36m深さ0.6mの範囲に垂直に近く直線的に積まれている。

遺物は、内耳土鍋片・伊万里染付皿（近世）（陶磁器50）・伊万里染付碗（近世）（陶磁器55）・伊万里染付皿（19世紀）（陶磁器63）が出土した。

これらの遺物とD33・D34・D36号土坑より新しい重複関係から所産時期は、近世（19世紀）と考えられる。

Ta2号竪穴状遺構

本址はB地区い・う-6・7グリッドから検出され、西側が調査区域外に伸びる。南壁の一部を攪乱に、東の壁をP77・P79・P80・P108号ピットに壊されている。

形態は東西が長軸となる長方形を呈する。規模は南壁2.72m東壁2.48m壁高0.23~0.46mを測り、検出部分の底面面積は5.52㎡である。底面は、貼床はみられず軟弱である。

長軸方位はN-76°-Eを示す。覆土1・2層に少量の炭化物が見られた。西壁に近い底面上に1mの範囲に厚さ10cmほど灰が堆積していたが、「炉」としての火床面は確かでない。

東側に付く張り出し部は、ほぼ平坦で底面から20cmほど高くなっている。

遺物は、内耳土鍋片・かわらけ片が出土した。所産時期は、中世と考えられる。

2. 土抗

土抗はA地区で13基B地区で28基の計41基が検出された。出土した遺物や重複関係などから所産時期はD1~13・18・19・24・26・31・34・35・37~41の25基が中世、D32・33・36の3基が近世、D15・D20が近代、他の11基が時期不明である。

形態は方形・長方形・円形・楕円形・台形・不整形があるが、長方形・円形・楕円形の土抗が多い。

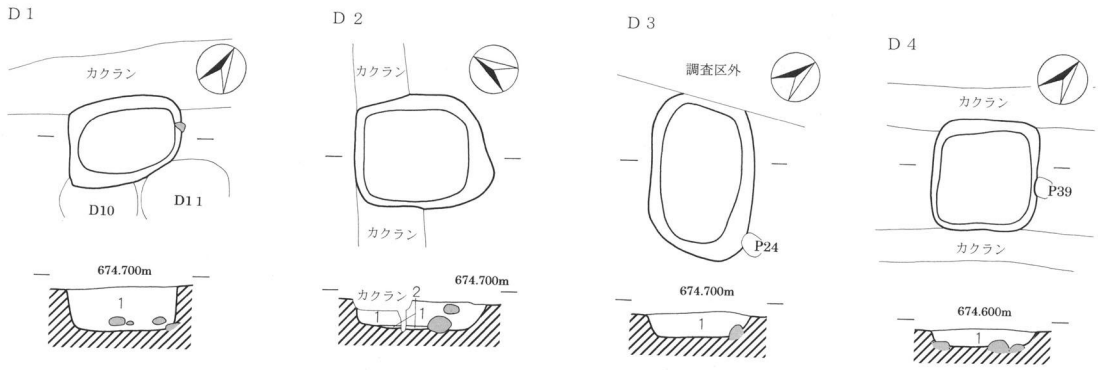
A・B地区とも近現代において整地されており、40~50cmほど攪乱を受けていて、確認された遺構の深さは、20~40cmである。D21・D23・D35・D36・D39は、60~95cmと深く掘り込まれている。

M2号堀址の外側にあたるA地区の13基は、A地区45個のピット群と共にすべて中世である。B地区の中世の土抗15基は、M1号・M2号堀址から5~8m距離を置いた堀址の内側から検出された。グリッド4~10列に収まる。

中世の土抗覆土は、15基に焼土や炭化物を含んでいる。特にB地区では13基中の11基にみられた。D6・D24・D41は多量に含む。D24・D35には、礫（5~40cm）が、壁に密着して廻るように配置されていた。D24には、炭が多量に検出された。D35にも炭化物と灰がみられ、特に底面に多い。D10・11は近接しており形態等酷似している。D11号土坑は、A地区こ-14グリッドから検出された。形態は円形で、規模は径1.4m深さ57cmを測る。覆土1層は地山の砂粒を含み、堆積の形は土抗断面形と相似形である。2層は5~30cm大の礫を含む暗褐色の粘質土で、しっかり締まっている。2層に沿った形のもの（桶状のもの）が土中に固定されていたことが窺える。

D21・D23は深く掘り込まれ、多量の礫（5~50cm大）が詰まっていた。中には茶臼もみられる。礫と土砂を埋めたものであろう。

D14・D15は、焼土が多量にみられ、底面まで焼け込みが見られた。D14は底面南北側に切石を据え、多量の瓦と土を用いて築造されていたものであろう。D15からは底面に据えられていたであろう4個の直方体切石が、出土した。多量の焼土と細片となった焼け込んだ壁体が堆積していた。



D1の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質土。焼土・炭を少量、小礫を微量含む。

D2の土層説明

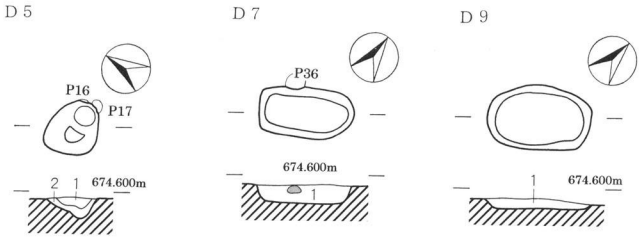
1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物を含む。地山の砂粒・砂ブロックを含む。
2. 砂と灰の混合土。

D3の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物を含む。焼土粒子・地山の砂粒を少量含む。

D4の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物を少量含む。地山の砂粒・砂ブロックを含む。



D5の土層説明

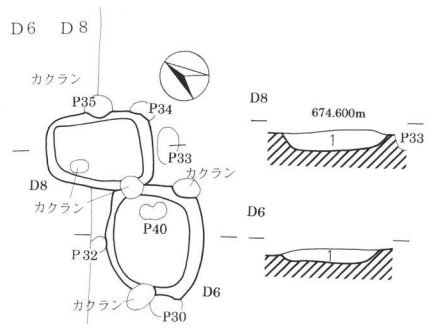
1. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質土。炭を少量含む。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質土。炭を多量含む。

D7の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物を少量含む。

D9の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物を少量含む。

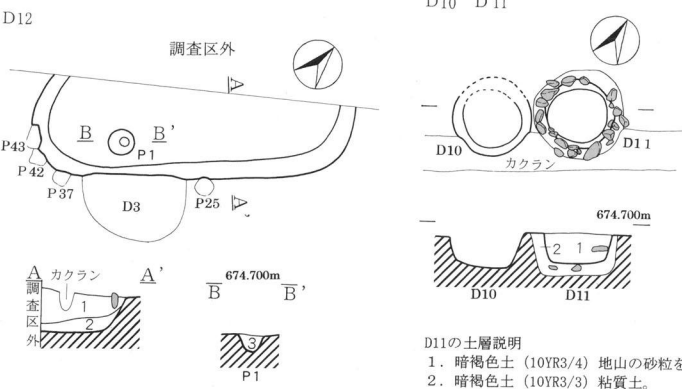


D6の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質土。炭・焼土を少量含む。

D8の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘質土。炭・焼土を少量含む。

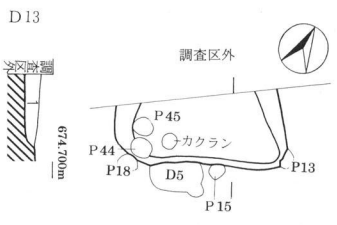


D12の土層説明

1. 黒褐色土 (10Y R2/3) 焼土・炭化物を含む。
2. 黒褐色土 (10Y R3/2) 炭化物を少量含む。地山の砂粒を含む。
3. 黒褐色土 (10Y R2/3) 炭化物を含む。地山の砂粒を少量含む。

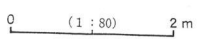
D11の土層説明

1. 暗褐色土 (10YR3/4) 地山の砂粒を含む。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘質土。

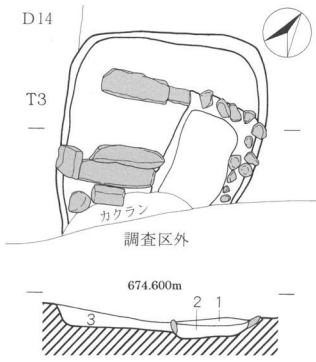


D13の土層説明

1. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物を少量含む。地山の砂粒・砂ブロックを含む。

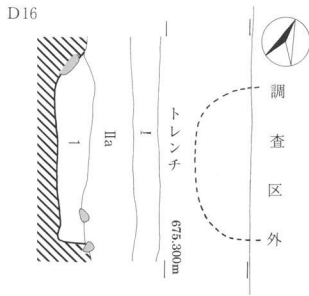


第6図 土坑実測図 (1)



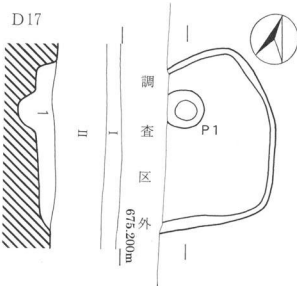
D14の土層説明

1. 暗褐色土 (10YR3/4) 粘土・焼土を多量含む。
2. 黒色土 (10YR2/1) 炭。
3. 赤褐色土 (2.5YR4/8) 焼土主体。



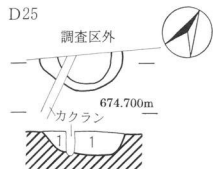
D16の土層説明

1. 暗褐色土 (10YR3/4) 炭を少量、礫 (2~5cm大) を多量含む。



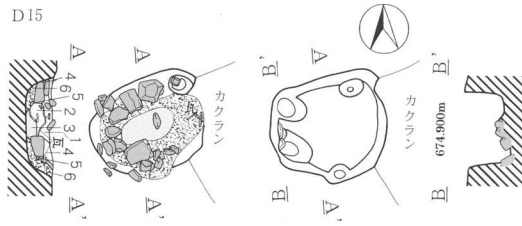
D17の土層説明

1. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭を少量含む。



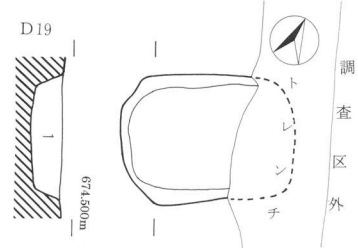
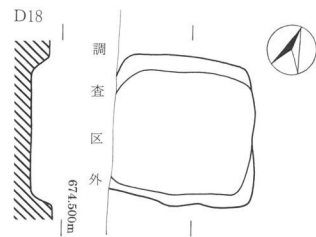
D25の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 砂質で炭化物・小石を微量含む。



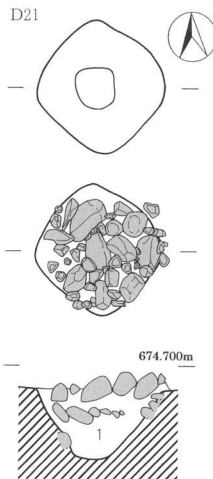
D15の土層説明

1. 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 粘質土。
2. にぶい赤褐色土 (5YR4/4) 焼土。
3. にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 灰。
4. 極暗赤褐色土 (5YR2/3) 粘質土。焼土ブロック (固い) を多量含む。
5. 暗赤褐色土 (5YR3/6) 焼土 (焼けた構築土が崩落したもの)。
6. 暗赤褐色土 (5YR3/6) 焼土。



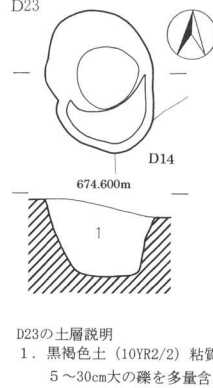
D19の土層説明

1. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘質土。炭を少量含む。



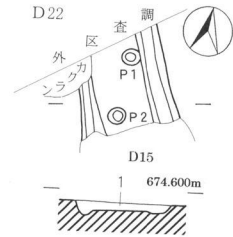
D21の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。



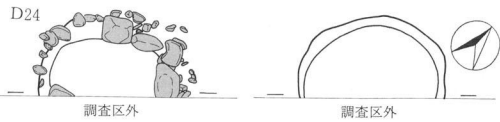
D23の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。5~30cm大の礫を多量含む。



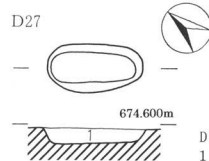
D22の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 砂質で炭化物を少量含む。



D24の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR3/1) 炭を多量含む。ローム粒子を少量含む。

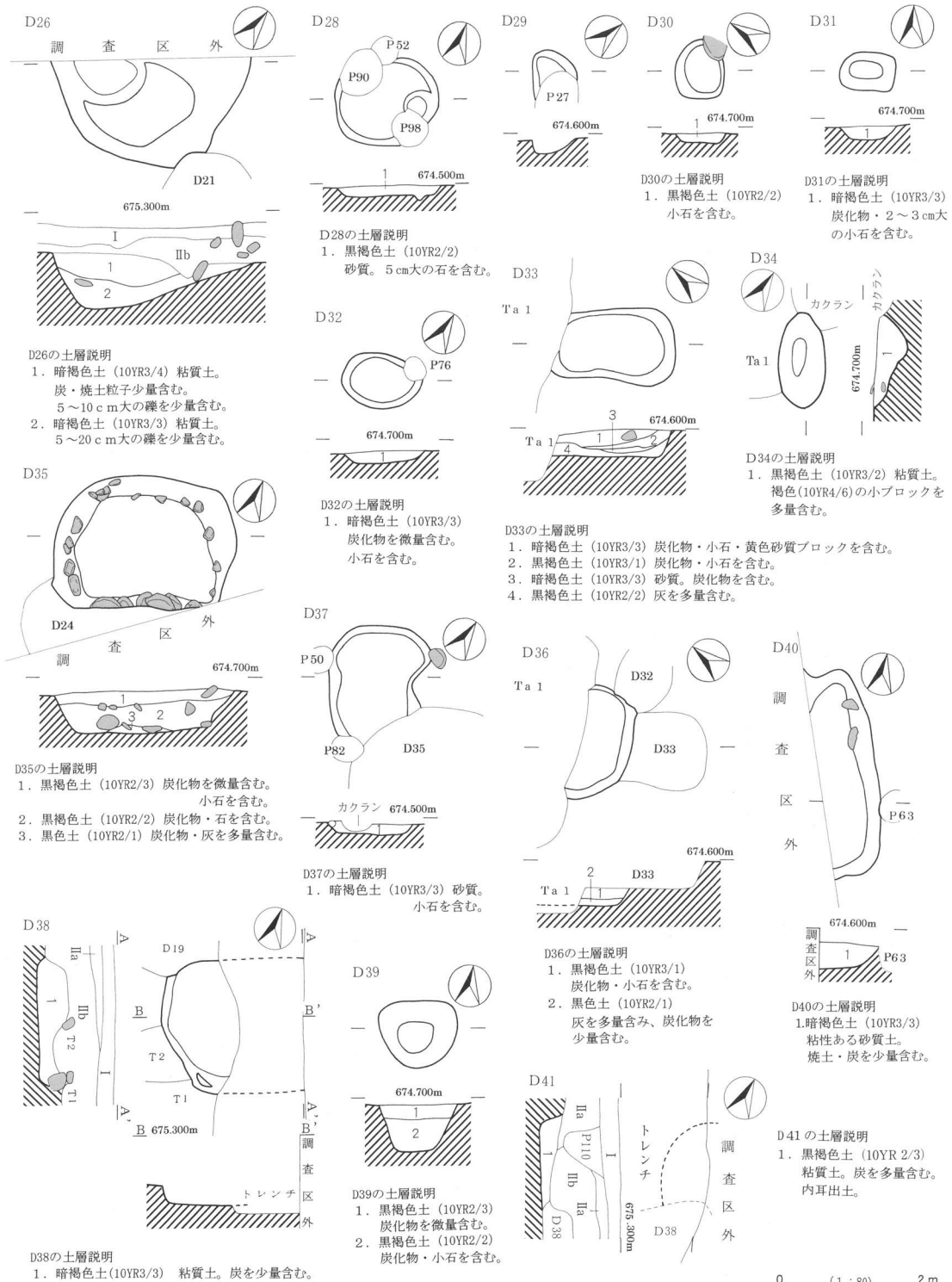


D27の土層説明

1. 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物・小石を含む。

0 (1:80) 2m

第7図 土抗実測図 (2)



第8図 土坑実測図(3)

第1表 土抗一覧表①

遺構名	検出位置	重複関係	平面形態	長軸方位	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	壁残高 (cm)	備考 (出土・遺物など)
D1	A地区 こ-14	カクラン・D10・D11に切られる。	長方形	N-52° - E	136	<110>	60	永楽通寶 (古銭 7) かわらけ (中世) 土鍋 (中世)
D2	A地区 こ-14	カクランに切られる。	方形	N-35° - W	160	140	45	かわらけ (15C末~16C) (かわらけ 7) かわらけ (15C後半以降) (かわらけ 15) かわらけ (中世) 土鍋 (中世)
D3	A地区 さ-14	P24に切られる。D12を切る。 北側調査区外。	長方形	N-47° - W	<194>	126	37	土鍋 (15C中頃) (土鍋等 1) 瓦質播鉢 (中世) (土鍋等 20) 大窯灰釉丸皿 (陶磁器 16) 大窯鉄釉・錆袖天目茶碗 (陶磁器 22) 陶器 甕 (常滑) (陶磁器 34) 洪武通寶 (古銭 5) 不明古銭 (古銭 16) かわらけ (中世) 土鍋 (15C後~16C前) 土鍋 (中世) 瓦質播鉢 (中世)
D4	A地区 さ-14	カクラン・P2・P39に切られる。	方形	-	<134>	<128>	20	土鍋 (15C後~16C前) (土鍋等 10) かわらけ (中世) 土鍋 (中世) 土師質火鉢 (近世以降)
D5	A地区 さ-14	P16・P17に切られる。 D13を切る。	円形	-	<68>	62	35	
D6	A地区 こ-14	カクラン・P30・P32に切られる。 P40と重複 (新旧不明)。D8と重複 (新旧不明)。	長方形	N-55° - E	<132>	120	23	土鍋 (15C後~16C前) (土鍋等 12) 土鍋 (15C後~16C前) 土鍋 (中世)
D7	A地区 こ-13	P36に切られる。	楕円形	N-56° - E	116	60	24	土鍋 (15C後~16C前) (土鍋等 6・11) 石臼 (下臼) (石播鉢・石臼・茶臼 10) 大平興寶 (古銭 2) かわらけ (中世) 土鍋 (中世)
D8	A地区 け-13	カクラン・P34・P35に切られる。 D6と重複 (新旧不明)。	長方形	N-40° - W	132	86	31	かわらけ (中世) 土鍋 (中世)
D9	A地区 こ-13		長方形	N-52° - E	124	78	16	角釘 (鉄製品 29) 土鍋 (中世)
D10	A地区 こ-14	カクランに切られる。 D1を切る。	円形	-	98	96	43	砥石 (砥石・不明石製品 4) 土鍋 (中世)
D11	A地区 こ-14	カクランに切られる。 D1を切る。	円形	-	74	74	57	
D12	A地区 さ-14	D3・P25・P37・P42・P43に切ら れる。 北側調査区外。	楕円形?	-	<396>	<110>	46	土鍋 (15C後~16C前) (土鍋等 8) 瓦質播鉢 (中世) (土鍋等 20) 土製円板 (土鍋等 23) 大窯灰釉丸皿 (陶磁器 18) 大窯鉄釉・錆袖天目茶碗 (陶磁器 23) 至道元寶 (古銭 1) 不明古銭 (古銭 18) かわらけ (中世) かわらけ (15C後半以降) 土鍋 (中世)
D13	A地区 さ-14	カクラン・D5・P13・P15・P18・ P44・P45に切られる。北側調査 区外。	台形?	-	<206>	<80>	29	土鍋 (15C中頃) (土鍋等 1)
D14	B地区 お-10・11	南側調査区外 T3・カクランに切られる。 D23を切る。	長方形?	N-32° - W	<224>	248	30	直方体切石
D15	B地区 え-19	カクランに切られる。 D22を切る。	長方形	N-80° - E	<148>	128	39	白磁皿 (陶磁器 9) 磁器染付碗 (伊万里) (陶磁器 60) 土鍋 (中世) 瓦 (近代) 磁器染付皿 (伊万里) (近世)
D16	B地区 い-3	東側調査区外	不明	-	-	-	<40>	
D17	B地区 え-3	西側調査区外	長方形	-	197	<140>	22	角釘 (鉄製品 5)

第2表 土抗一覧表②

遺構名	検出位置	重複関係	平面形態	長軸方位	長軸長 (cm)	短軸長 (cm)	壁残高 (cm)	備考 (出土・遺物など)
D18	B地区 う-4・5	西側調査区外	方形	-	185	<168>	33	陶器灰釉鉢(常滑)(陶磁器47) 磁器染付碗(伊万里)(陶磁器54) 土鍋(中世)
D19	B地区 う-4	東側トレンチに切られる。D 38に切られる。	-	-	152	<140>	42	かわらけ(15C~16C)(かわらけ3) 土鍋(中世) 古瀬戸灰釉深皿(陶磁器11)
D20	B地区 か-き-11	M2を切る。	円形	-	80	78	14	
D21	B地区 お-9・10	D26を切る。	方形	-	142	140	86	茶臼(下臼)(石搗鉢・石臼・茶臼13)
D22	B地区 え-お-8・9	北東側調査区外 カクラン・D15に切られる。	-	N-24°-W	<108>	108	12	
D23	B地区 か-10		円形	N-14°-W	180	125	95	
D24	B地区 う-9	南東側調査区外 D35を切る。	円形	-	180	<98>	30	かわらけ(15C末~16C)(かわらけ5) 鉄鉢(鉄製品43) 土鍋(中世)
D25	B地区 え-8	北側調査区外 カクランに切られる。	円形	N-88°-E	<44>	<42>	28	
D26	B地区 お-か-9	北側調査区外 D21に切られる。	不整形	-	<183>	<162>	49	大窯灰釉皿(陶磁器25) かわらけ(中世) 土鍋(中世)
D27	B地区 お-か-9	D29を切る。	楕円形	N-40°-W	117	60	22	
D28	B地区 う-8	P52・P90・P98に切られる。	円形	N-65°-E	148	<137>	20	不明古銭(古銭15)
D29	B地区 う-8	D27に切られる。	不整形	-	<16>	62	22	
D30	B地区 い-8		楕円形	N-51°-E	84	74	21	
D31	B地区 い-7		長方形	N-89°-W	77	54	31	土鍋(中世)
D32	B地区 い-う-7	D36を切る。P76に切られる。	楕円形	N-73°-E	112	79	22.5	不明石製品(砥石・不明石製品11) 土鍋(中世)
D33	B地区 う-7・8	D36を切る。Ta1に切られる。	長方形	N-40°-W	<164>	95	45.5	大窯灰釉丸皿(陶磁器19) 陶器灰釉鉢(在地)(陶磁器48) 陶器灰釉せんじ茶碗(瀬戸・美濃)(陶磁器40) 土師質火鉢類(近世以降)
D34	B地区 い-う-7	カクラン・Ta1に切られる。	楕円形	N-34°-W	138	68	40	かわらけ(中世) 土鍋(中世)
D35	B地区 う-8・9	南東側調査区外 D24に切られる。 D37・P82を切る。	台形	N-74°-E	260	<182>	64	土鍋(中世)
D36	B地区 う-7	D32・D33・Ta1に切られる。	台形?	-	<160>	<68>	60	磁器 染付皿(伊万里)(近世)
D37	B地区 う-え-8・9	D35・P50・P82に切られる。	不整形	N-32°-W	<152>	120	21.5	かわらけ(近世)(かわらけ20) 石臼(土臼)(石搗鉢・石臼・茶臼5)
D38	B地区 い-4	東側調査区外。D19を切る。 トレンチ・T1・T2に切られる。	不明	-	-	-	12	かわらけ(中世) 土鍋(中世)
D39	B地区 い-7		円形	-	105	100	71	白磁(口禿)皿(中国)(陶磁器8)
D40	B地区 う-5・6	西側調査区外 P63に切られる。	不明	-	300	<80>	34.5	かわらけ(15C~16C)(かわらけ2) 古瀬戸鉄釉天目茶碗(陶磁器15)
D41	B地区 い-4	東側調査区外 トレンチ・D38に切られる。	不明	-	-	-	<34>	

3. ピット

ピットはA地区で45個、B地区で63個が検出された。出土した遺物や中世土抗の覆土との類似性からA地区はすべて中世の所産と思われる。B地区では、近世と中世ピット覆土の見極めはできなかった。B地区の中世ピット群は、グリッド5~9列の範囲で掘址(M1・M2)から11m離れた位置か

第3表 ビット一覧表①

遺構名	検出位置	重複関係	平面形態	規模 (cm) 長径×短径×深さ	覆 土	備 考 (出土・遺物など)
P1	A地区 こ-15	-	円形	16 × 16 × 18	黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物わずかに含む。	
P2	A地区 さ-14	D4を切る。	方形	29 × 20 × 21	黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物わずかに含む。	かわらけ (15C後半以降) (かわらけ 5)
P3	A地区 さ-14	-	方形	32 × 30 × 33	黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物少量含む。	青磁碗 (中国) (陶磁器 3)
P4	A地区 こ-14	-	方形	32 × 31 × 27	黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物少量含む。	土鍋 (中世)
P5	A地区 こ-14	-	楕円形	57 × 33 × 11	黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物含む。地山の砂粒 (褐色土10YR4/6) 含む。	嘉祐通寶 (古銭 3)
P6	A地区 さ-14	カクランに切られる。	円形	<26> × <23> × 21	黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物含む。地山の砂粒 (褐色土10YR4/6) 含む。	土鍋 (中世)
P7	A地区 さ-14	カクランに切られる。	円形	<24> × <22> × <18>	黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物わずかに含む。地山の砂粒含む。	
P8	A地区 さ-14	-	方形	24 × 19 × 18	黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物わずかに含む。地山の砂粒含む。	
P9	A地区 さ-14	-	方形	21 × 21 × 15	黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物わずかに含む。地山の砂粒含む。	青磁碗 (中国) (陶磁器 2)
P10	A地区 さ-14	-	方形	22 × 17 × 16	黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物わずかに含む。地山の砂粒含む。	
P11	A地区 さ-14	-	方形	27 × 22 × 14	黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物わずかに含む。地山の砂粒含む。	土鍋 (中世)
P12	A地区 さ-14	-	方形	28 × 20 × 24	黒褐色土 (10YR2/3) 地山の砂粒多く含む。	



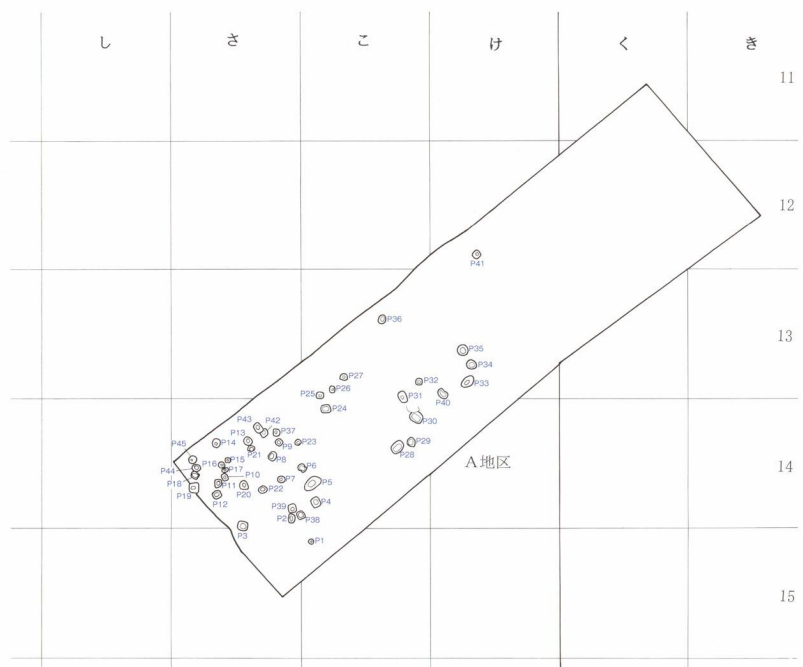
第9図 ビット土層実測図

第4表 ピット一覧表②

遺構名	検出位置	重複関係	平面形態	規模 (cm) 長径×短径×深さ	覆 土		備 考 (出土・遺物など)
P13	A地区 さ-14	D13を切る。	円形	27 × 24 × 22	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P14	A地区 さ-14	D13を切る。	円形	26 × 25 × 17	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P15	A地区 さ-14	D13を切る。	円形	21 × 20 × 14	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P16	A地区 さ-14	D5を切る。	方形	21 × 18 × 15	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P17	A地区 さ-14	D5を切る。	楕円形	22 × 12 × 10	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P18	A地区 さ-14	D13を切る。	方形	24 × 22 × 18	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P19	A地区 さ-14		方形	30 × 30 × 23	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P20	A地区 さ-14		円形	28 × 24 × 21	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P21	A地区 さ-14		方形	20 × 14 × 9	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P22	A地区 さ-14	カクランに切られる。	方形	<20> × <17> × <13>	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P23	A地区 さ-14		方形	20 × 18 × 14	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P24	A地区 こ-14	D3を切る。	方形	30 × 26 × 22	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P25	A地区 こ-13	D12を切る。	方形	21 × 20 × 17	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P26	A地区 こ-13		方形	20 × 16 × 27	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P27	A地区 こ-13		方形	22 × 16 × 11	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P28	A地区 こ-14		方形	44 × 30 × 13.5	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	土鍋 (中世)
P29	A地区 こ-14		方形	27 × 25 × 26	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P30	A地区 こ-14	カクランに切られる。 D6を切る。	方形	39 × 34 × 19.5	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P31	A地区 こ-14		方形	33 × 24 × 16.5	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P32	A地区 こ-13	D6を切る。	方形	20 × 20 × 7.5	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P33	A地区 け-13		楕円形	46 × 27 × 21	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P34	A地区 け-13	D8を切る。	方形	31 × 25 × 9	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P35	A地区 け-13	D8を切る。	円形	36 × 32 × 24	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P36	A地区 こ-13	D7を切る。	円形	24 × 24 × 12	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P37	A地区 こ-14	D12を切る。	方形	22 × 16 × 19	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	
P38	A地区 さ-14		方形	22 × 22 × 12	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	かわらけ (中世)
P39	A地区 さ-14	D4を切る。	方形	25 × 23 × 27	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。地山の砂粒少量含む。	かわらけ (中世)
P40	A地区 け-13	D6と重複する (新旧不明)。	楕円形	34 × 16 × 18	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。	かわらけ (15C~16C) (かわらけ 7)
P41	A地区 け-12		方形	21 × 19 × 24	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物・焼土少量含む。	
P42	A地区 さ-14	P43に切られる。 D12を切る。	方形	20 × <18> × 15	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物・焼土少量含む。	
P43	A地区 さ-14	D12・P42を切る。	方形	32 × 24 × 27	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物・焼土少量含む。	古瀬戸灰釉腰折皿 (陶磁器 12)
P44	A地区 さ-14	D13を切る。	円形	30 × 25 × 41	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。	
P45	A地区 さ-14	D13を切る。	円形	25 × 25 × 50	黒褐色土 (10YR2/3)	炭化物少量含む。	
P46	B地区 え-9		円形	30 × 33 × 13.0	黒褐色土 (10YR2/2)	砂質土。炭化物少量含む。	
P47	B地区 う-8		楕円形	40 × 28 × 28	黒褐色土 (10YR3/1)	砂質土。小石少量含む。	

第5表 ピット一覧表③

遺構名	検出位置	重複関係	平面形態	規模 (cm) 長径×短径×深さ	覆 土	備 考 (出土・遺物など)
P48	B地区 え-9		楕円形	36 × 28 × 16	黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物・小石含む。	
P49	B地区 え-8		楕円形	52 × 38 × 21	黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物・小石含む。	
P50	B地区 え-8・9	D37を切る。	楕円形	44 × 32 × 22	黒褐色土 (10YR2/2) 小石含む。	
P51	B地区 う-8		楕円形	28 × 17 × 11	黒褐色土 (10YR2/2) 小石含む。	
P52	B地区 え-8	P90に切られ、D28を切る。	円形	38 × 38 × 22		
P53	B地区 い-8		円形	39 × 34 × 23.5	黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物・小石含む。	
P54	B地区 い-8		楕円形	52 × 44 × 33	黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物微量含む。	
P55	B地区 い-8	P85を切る。 T1に切られる。	楕円形	70 × 50 × 28	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。	
P56	B地区 い-5・6	T1に切られる。	楕円形	80 × 42 × 38	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。	土鍋 (中世)
P57	B地区 い・う-5	P65を切る。 T1に切られる。	楕円形	62 × 46 × 26	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。	土鍋 (中世)
P58	B地区 う-6	T1に切られる。	不整形	128 × 89 × 33.5	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。	
P59	欠					
P60	B地区 い-6	トレンチ・T1に切られる。 P85を切る。	楕円形	<67> × <50> × 38	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。	
P61	B地区 い-6	T1を切る。 トレンチに切られる。	円形	49 × 44 × 45	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。 焼土粒子・炭少量含む。	磁器染付碗 (伊万里) (近世)
P62	B地区 い-6	T1に切られる。	楕円形	60 × 20 × 11	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。	
P63	B地区 う-5	D40を切る。 T1に切られる。	円形	48 × 46 × 44.5	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。 焼土粒子・炭少量含む。	
P64	B地区 い-5	トレンチに切られる。	楕円形	<36> × <26> × <14>	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。	
P65	B地区 う-5	T1・P57に切られる。	円形	66 × <34> × 15		
P66	B地区 い-5	T1・トレンチに切られる。	円形	<50> × <38> × 48	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。 焼土粒子・炭少量含む。	
P67	B地区 い-5	トレンチに切られる。	円形	<48> × <44> × <20>	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。 焼土粒子・炭少量含む。	
P68	B地区 い-8		楕円形	40 × 24 × 18	黒褐色土 (10YR2/3) 砂質のローム粒子微量含む。	
P69	B地区 い-8		円形	38 × 37 × 23	黒褐色土 (10YR2/2) 砂質土。 小石・炭化物微量含む。	
P70	B地区 い-8		円形	27 × 24 × 32	黒褐色土 (10YR2/2) 砂質土。 小石・炭化物微量含む。	
P71	B地区 い-6	トレンチに切られる。	円形	<24> × <24> × <15>	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。	
P72	B地区 い-6・7		円形	58 × 47 × 35	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。 焼土粒子・炭少量含む。	
P73	B地区 い-7		円形	29 × 26 × 22.5	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。	
P74	B地区 い-7		円形	80 × 76 × 41	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。 焼土粒子・炭少量含む。	
P75	B地区 い-5	トレンチに切られる。	円形	<47> × 44 × 30	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。	古瀬戸鉄釉縁釉小皿 (陶磁器14)
P76	B地区 い-7	D32を切る。	円形	36 × 32 × 10.5		
P77	B地区 い-6	T1を切る。	円形	47 × 44 × 13.5	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。	
P78	B地区 い-6	トレンチに切られる。	円形	<44> × <40> × <31>	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。	
P79	B地区 い-6	B地区P108を切る。 T1を切る。	楕円形	49 × 34 × 27	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。 焼土粒子・炭少量含む。	
P80	B地区 う-6	T1を切る。	楕円形	64 × 44 × 22.5	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。 焼土粒子・炭少量含む。	土鍋 (15C後半~16C前半) (土鍋等7) 土師質土器火鉢類 (近世~近代) (須恵器・土師質土器3)
P81	B地区 い-8		円形	24 × 23 × 16		



第10図 ビット群分布図 (1:100)

第6表 ピット一覧表④

遺構名	検出位置	重複関係	平面形態	規模 (cm) 長径×短径×深さ	覆 土	備 考 (出土・遺物など)
P82	B地区 う-9	D37を切り、D35に切られる。	楕円形	50 × 36 × 43		かわらけ (15C~16C) (かわらけ1)
P83	B地区 う-8		楕円形	50 × 38 × 16		
P84	B地区 え-3		円形	38 × 36 × 13	暗褐色土 (10YR3/3) 褐色土 (10YR4/6) の小ブロック少量含む。	
P85	B地区 い-6	T1・P55・P60に切られる。	楕円形	60 × 46 × 31	黒褐色土 (10YR2/2) 粘質土。焼土粒子・炭少量含む。	
P86	B地区 い-5	東側調査区外トレンチに切られる。	楕円形	<38> × <22> × <46>		
P87	B地区 う-5	T1・T2に切られる。	楕円形	<70> × <50> × <49>		かわらけ (近世) (かわらけ19)
P88	B地区 え-8		楕円形	68 × 46 × 40	1.黒褐色土 (10YR3/1) 砂質土。炭化物微量含む。 2.暗褐色土 (10YR3/4) 砂質土。5cm大の礫少量含む。 3.黒褐色土 (10YR2/3) 砂質土。5cm大の礫少量含む。	
P89	B地区 え-9		円形	52 × 52 × 15	黒褐色土 (10YR2/3) 砂質土。小石少量含む。	
P90	B地区 え-8	P52・D28を切る。	楕円形	72 × 57 × 28	黒褐色土 (10YR2/3) 砂質土。炭化物・礫少量含む。	
P91	B地区 え-8		楕円形	70 × 60 × 15	黒褐色土 (10YR2/3) 砂質土。小石含む。	
P92	B地区 え-8	カクランに切られる。	楕円形	<36> × <26> × 33	黒褐色土 (10YR2/3) 砂質土。炭化物微量含む。	
P93	B地区 え-8		円形	48 × 46 × 16	黒褐色土 (10YR2/3) 砂質土。小石含む。	
P94	B地区 え-8		楕円形	54 × 34 × 39	黒褐色土 (10YR2/3) 砂質土。炭化物微量含む。	
P95	B地区 う-8		楕円形	86 × 58 × 34	黒褐色土 (10YR2/2) 小石含む。	
P96	B地区 う-8		楕円形	67 × 56 × 33	黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物・小石含む。	土鍋 (中世)
P97	B地区 う-8		楕円形	74 × 44 × 23	黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物含む。	
P98	B地区 え-8	D28を切る。	円形	52 × 50 × 11		
P99	B地区 い-8		楕円形	60 × 32 × 21	黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物・小石含む。	
P100	B地区 い-7		楕円形	84 × 68 × 71	1.黒褐色土 (10YR2/3) 小石微量含む。 2.黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物微量含む。	かわらけ (15C後半以降) (かわらけ18)
P101	B地区 あ-7	南東側調査区外P109を切る。	円形	85 × 84 × 61.5	1.黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物微量含む。 2.黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物・小石含む。 3.黒褐色土 (10YR3/2) 小石含む。	かわらけ (15C末~16C) (かわらけ6) 土鍋 (15C中頃) (土鍋等3) かわらけ (中世) 土鍋 (中世)
P102	B地区 い-7		楕円形	118 × 96 × 46.5	1.黒褐色土 (10YR2/3) 小石微量含む。 2.黒褐色土 (10YR2/2) 小石・炭化物含む。 3.黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物含む。	土鍋 (中世)
P103	B地区 い-7		円形	70 × 64 × 48	1.黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物少量含む。 2.黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物・小石を含む。	土鍋 (中世)
P104	B地区 あ-7		円形	65 × 62 × 48	黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物・小石含む。	
P105	B地区 い-7		楕円形	60 × 48 × 39.5	黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物・小石含む。	
P106	B地区 あ-7		円形	48 × 42 × 22	黒褐色土 (10YR2/3) 小石含む。	
P107	B地区 あ・い-7		楕円形	72 × 60 × 40.5		
P108	B地区 い-6	P79に切られる。T1を切る。	楕円形	100 × 71 × 51		
P109	B地区 あ-7	南東側調査区外P101に切られる。	楕円形	<118> × <36> × 42		

ら検出された。ピットの形態は方形・円形・楕円形である。A地区の45個は方形が基調で、黒褐色の覆土に炭化物を含んでいる。P28・38~40・43からかわらけ・土鍋・中世陶器片が出土した。B地区のT1・T2号集石址付近から近世のピットP61・77・79・80・87・108が検出された。P56・57・75・82・96・101・102・103からは、かわらけ・土鍋・中世陶器片が出土している。

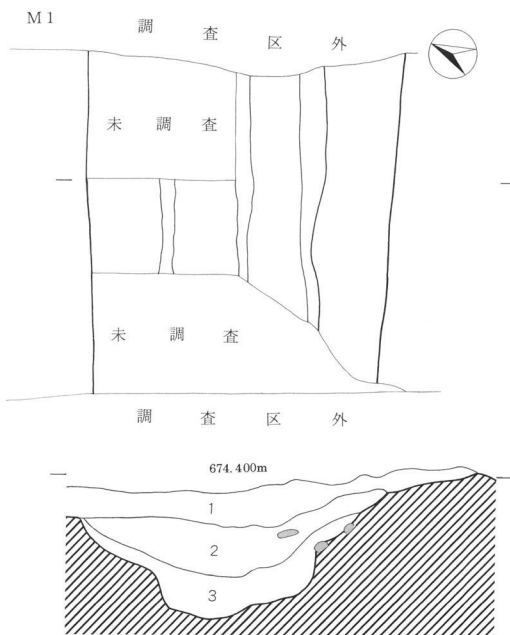
4. 堀址

B地区2地点より溝状遺構（調査区北側M1号、西側M2号）が検出された。いずれも、寛延4年（1751）「信州佐久郡野沢原両村図」の絵図に描かれている土塁罫線に一致するとみられ、堀址といえよう。土塁に関する遺構・痕跡は、確認できなかったが、堀址と同時期あるいは堀址築造後の近い時期の遺構が検出されなかった空間に土塁の存在を想定できようか。

M1号堀址

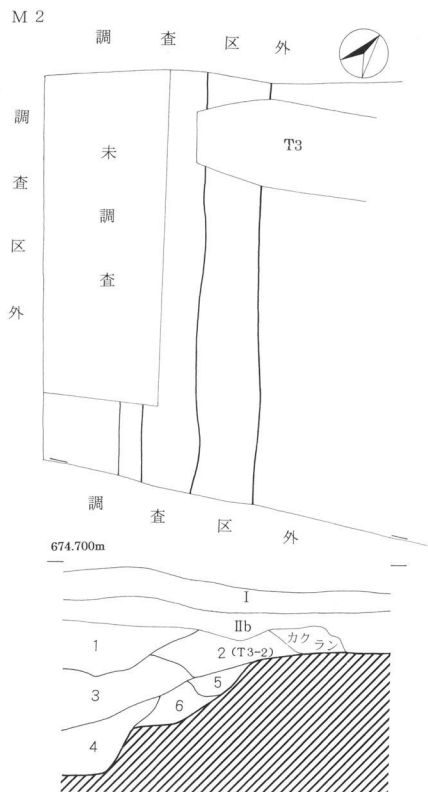
A地区の北端う・え-2グリッドから検出された。重複遺構はない。内側（野沢館跡主郭側）に約7m離れて中世（15～16世紀）のD18・19・38・41土抗が、近接して時期不明のP84・D16・D17がある。外側4m内に、他の遺構は確認されなかった。

幅3.5m～3.9m深さ1.76mを測る。底面は外側寄りが15cmほど窪んでおり、内側にテラス状の平坦



M1の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR2/3) 砂質土。礫 (2～10cm大) を少量含む。
2. 暗褐色土 (10YR3/4) シルト質土 (北下がり帯状に細かい砂)。鉄分を含んだ、暗褐色 (7.5YR3/3) の小ブロックを多量含む。礫 (20cm大) を多量、炭を少量含む。内耳出土。
3. 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・シルト・礫 (5～10cm大) を多量、炭を少量含む。



M2の土層説明

1. 黒褐色土 (10YR3/1) シルトブロック含む。5cm大の礫を多量、20cm大の石を少量含む。鉄分を含む。内耳・石拵鉢出土。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 礫 (5～10cm大) を含む。
3. 褐灰色土 (10YR4/1) 砂層。粒子粗い、シルトブロック・鉄分を含む。5cm以下の礫を多量、10cm大の礫を少量含む。
4. 黒色土 (10YR1.7/1) シルト。水性堆積層。5cm以下の礫を多量含む。
5. 黒褐色土 (10YR3/2) 砂質土。6層をブロック状に含む。5cm以下の礫を含む。
6. 灰黄褐色土 (10YR4/2) シルト質土。5cm大の礫を少量含む。鉄分を含む。

0 (1:80) 2m

第11図 M1・M2号堀址実測図

面がある。底面から垂直に近く立ち上がり、外側は50cm内側は80cmの所から緩やかに上端へと向かう掘で、斜面途中で傾斜変換点がある。

野沢館跡主郭の堀址の調査でみられた堀の立ち上がり部分に敷き詰められた礫は、本遺構では認められなかった。遺構上端は、内側が60cmほど外側より高くなっている。

全体層序Ⅱ層の攪乱整地層（プラスチック製の櫛・ガラス片出土）はT 1号集石址付近では20～30cmの深さに対して、D18・19号土坑から本址にかけては60cmと深く及んでいる。この整地層は地山まで達していて土塁の痕跡は窺えない。また、覆土1層は、2・3層ではほぼ堀が埋没した後の堆積で堀の内側から外側まで覆っている。

覆土2・3層は水性堆積土とみられ、炭化物が少量、円礫（5～20cm大が主、50cm大もある）が多量に出土した。2層はシルト質土で帯状に細砂粒が北側下がりにもみられた。3層はシルト質土・砂層・小礫が互層状態でレンズ状に堆積している。

遺物は3層から第15図18の土鍋片（中世）・第16図1・4の龍泉窯青磁碗（12世紀後半・13世紀）が、2層から第15図14・15・19の土鍋片（15世紀後半から16世紀前半）・第16図31の常滑甕片（中世）が出土した。

M 2号堀址

B地区の西端き・く-10・11グリッドから検出された。検出幅2.7m深さ1.50mを測る。重複遺構のT 3号集石址とD20号土坑の一部壊されている。西側は、用水路築造の折りであろうか、破壊されている。また、内側（野沢館跡主郭側）に約4.5m離れて中世（15～16世紀）のD26号土坑が、約3.5m離れて時期不明のD14・D23号土坑がある。

底面は西側が完掘できていないが平坦な底面から急に立ち上がり、斜面途中の傾斜変換点から緩やかに上端へと向かう。野沢館跡主郭の堀址の調査でみられた堀の立ち上がり部分に敷き詰められた礫は、本遺構ではM 1号堀址同様認められなかった。

全体層序Ⅱ層の攪乱整地層（プラスチック製の櫛・ガラス片出土）はT 3号集石址付近では50cmの深さまで及んでいる。この整地層は一部地山まで達している。また、T 3号集石址の下部にもみられるM 2号の覆土2層（近代・現代の陶磁器を含む）形成時に地山まで及んでおり土塁の痕跡は窺えない。

覆土は、5cm大の礫を含むシルト質土と砂質土の5・6層の後4層が堆積している。4層は水性堆積層で5cm以下の礫を多量に含んでいる。次のやはり水性堆積の3層ではほぼ堀が埋没する。その後2層形成時に3層の上部が削られている。この2層も用水に関連すると見られる1層により一部削られている。

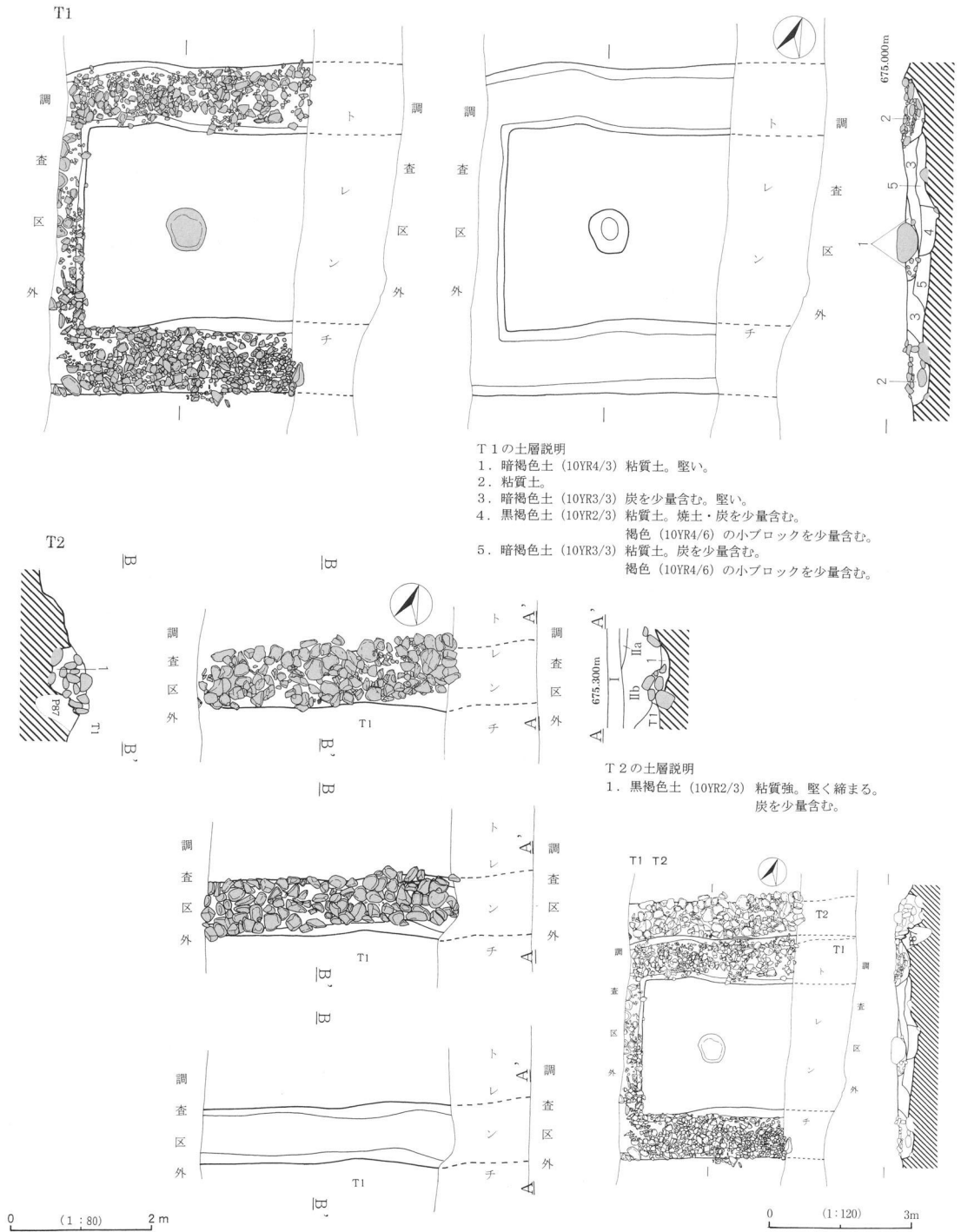
遺物は2層から第16図38の瀬戸・美濃陶器灰釉皿（18世紀）・第16図53の伊万里磁器染付碗（近世）が、1層から第14図14のかわらけ片（15世紀後半以降）・第15図2～4の土鍋片（15世紀中頃）・第15図9・13の土鍋片（15世紀後半から16世紀前半）が出土した。

5. 集石址

B地区より3基が検出された。浅い掘り方に大小の自然礫が敷き詰めてあった。

T 1号集積址

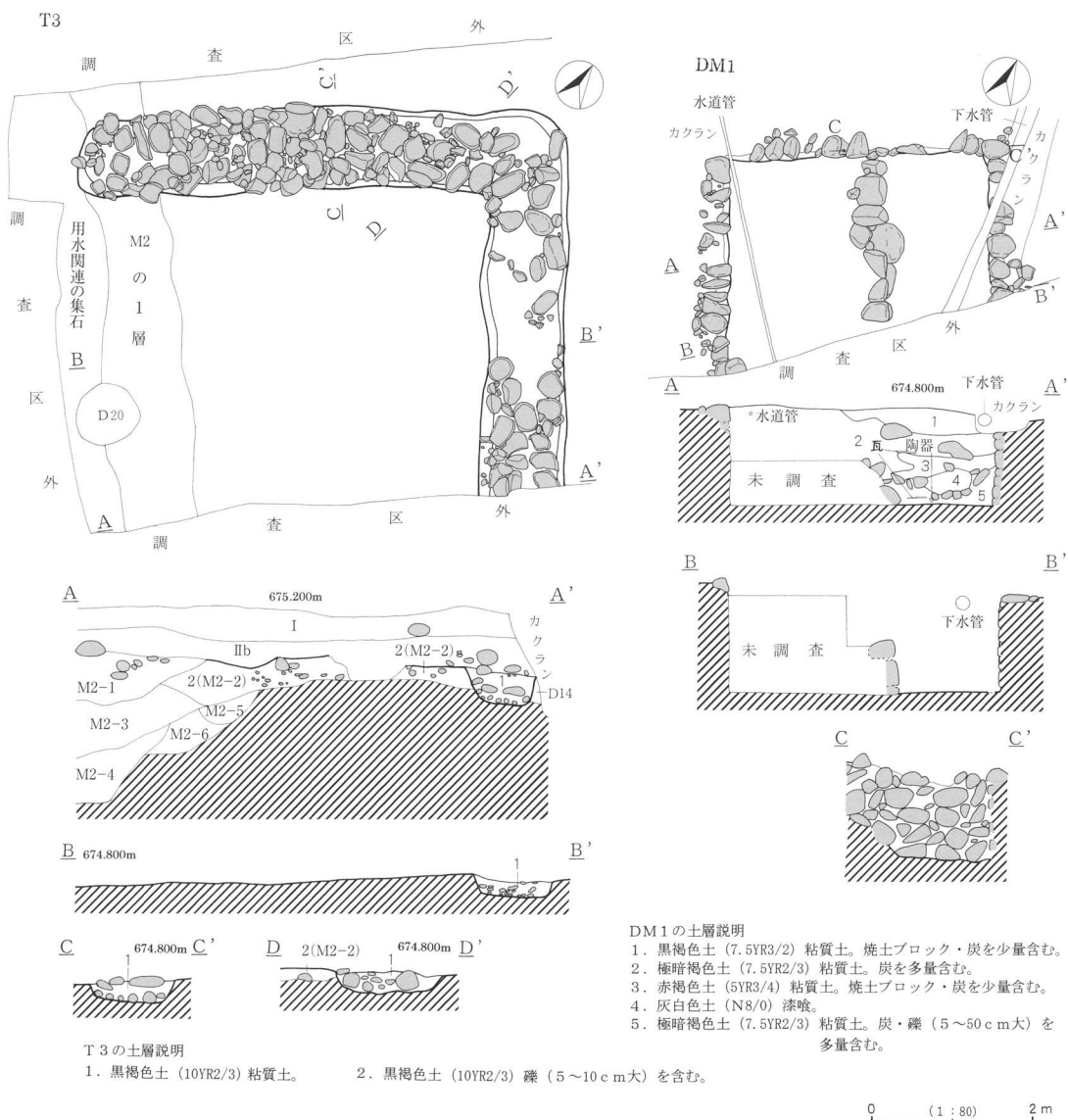
本址の重複関係はD38・D40号土坑・P55～58・60・62・63・85・87より新しく、T 2号集石址・P61・77・79・80・108より古い。遺構の東西部分が調査区外に伸びているが、東側の断面では北辺と南辺が東へ続いており、形態は長方形になろう。長辺はN-65°-Eを示す。掘り方は、南北4.6m、検出された東西5m深さ40cm前後を測る。この掘り方を縁取るような幅1m深さ30cm前後の掘り込みに5～15cm大の礫を敷き詰め、隙間には粘質土を詰めている。この内側には、整地面のような堅く締まった暗褐色土がみられ、礫に接する面は特に堅い。西辺よりの円形窪みには、粘質土で囲われた安山岩礫が置かれていた。径60cm厚さ30cmで重量があり上面は平坦で礎石とみられ、長方形の集石は基



第12図 T1・T2号集石址実測図

礎固めであろうか。

遺物は、礫内から第14図12のかわらけ（15世紀後半以降）・第16図24の瀬戸・美濃灰釉皿（16世紀）が出土し、整地層から第14図17のかわらけ（15世紀後半以降）、第16図7の青磁碁笥底皿（16世紀）、16-28の瀬戸・美濃灰釉折縁皿（16世紀）、16-30・36の常滑甕（中世）、16-37の瀬戸・美濃灰釉皿（18世紀）、16-49の伊万里染付陶胎碗（18世紀後半～19世紀前半）が出土した。また、第18図6・第19図9の石臼、19-12の茶臼、第20図2・4の凹石、第21図2・5の砥石、第22図2・11・16の角釘、第24図8・9・10の寛永通宝が整地層から出土した。出土遺物の時期は15世紀から18世紀・19世紀までみられる。遺構の重複関係では中世の土抗・ピットと近世のピットより新しく、近世のピットより古い。



第13図 T3号集石址・DM1号地下室実測図

T 2号集石址

本址はT 1号集石址と接し、東西に平行している。本址はD38号土坑・P87より新しく、T 1号集石址より古い。遺構の東西部分が調査区外に伸びている。検出された東西長は5mを測る。T 1号と同様に幅1m深さ40cm前後の掘り込みにT 1号より大きめな15~20cm大を主とする礫を敷き詰めている。礫の隙間には粘質の強い黒褐色土を詰めている。堅く締まっている。

遺物は、黒褐色土内から青磁碗（15世紀前半）が出土した。

別遺構として扱ったが、本遺構とT 1号の北辺がぶれることなく平行し、集石の状況も酷似しており、同一の遺構とも考えられる。

T 3号集石址

B地区の西端か・き-10・11グリッドから検出された。重複遺構は、M 2号堀址・D23号土坑より新しくD14号土坑より古い。西側は用水路改良・補修の折りであろうか、破壊されていて、遺構が続くのか否か不明である。遺構の南側部分は調査区外に伸びている。東辺は現用水と平行している。

検出された範囲での形態はL字形で、規模は東西長5.6m・南北長4.0mを測る。幅1m深さ30cm前後の掘り込みにT 1号と同じく礫が敷き詰めてられていた。上部に30~50cm大の大きめの自然礫、下部に5cm前後の自然礫、隙間に粘質の強い黒褐色土を充填していた。2層の整地層とみられる黒褐色土は、北辺付近内側と南側に残っていた。他の部分はⅡ層が及んでいて不明である。この整地層（2層）は、M 2号堀址の覆土3層を一部削っている。

遺物は第18図2の石播鉢、第18図4の石臼、第21図3の砥石、第22図34の角釘、第24図17の古銭等や、第14図16のかわらけ（15世紀後半以降）、第15図16の土鍋（16世紀中頃）、第16図10の古瀬戸灰釉瓶子（14世紀前半）、41の瀬戸・美濃鉄釉碗（18世紀）が2層と礫群内から出土した。M 2号堀址で2層とした土層は、本址の2層と同一であり、第16図38の瀬戸・美濃陶器灰釉皿（18世紀）、第16図53の伊万里磁器染付碗（近世）が出土している。

6 地下室

DM 1号地下室は、B地区え-9・10グリッドから検出された。下水管と水道管が横断している。南側が調査区外に伸びているが僅かに南西の角が確認できた。下水管と水道管が凍結する恐れがあり、また、破損を回避したため完掘していない。室内壁の東西長3.2m南北長2.6m確認面からの深さ1.2m（Ⅲ層上面から掘り込まれていると考えられ、当初は1.5mぐらいか？）を測る。室内は、全体層序Ⅱ層と同様の極暗褐色土で埋められていた。近現代の瓦・陶磁器類が多量に含まれる。長方形の掘り方の中に自然礫（自然礫の割石も含む）を積み上げて、礫の隙間には粘質土と漆喰で埋めている。横目地は比較的通っている。底石は敷かれていなかった。中央には南北に底面から60cmほど大きな礫が積まれていた。段差を設けたのか、仕切石であろうか。

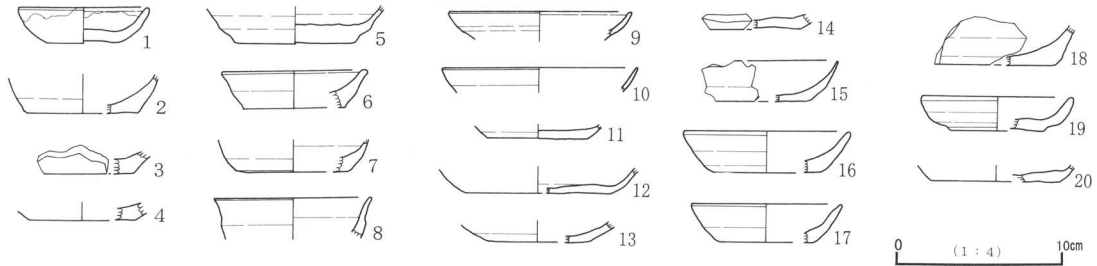
遺物は多量の近現代瓦・陶磁器類の他に、第16図26・42・45・51・52・73の陶磁器や第23図の角釘とタンスの把手が出土した。

第2節 遺物

かわらけ（第14図）・土鍋（第15図）・瓦質土器（第15図）・陶磁器（第16図）・須恵器（第17図）・土師質土器（第17図）・石播鉢（第18図）・石臼（第18・19図）・茶臼（第19図）・凹石（第20図）・砥石（第21図）・石製品（第21・25図）・鉄製品（第22・23図）・古銭（第24図）が出土した。（かわらけ・土鍋・陶磁器類一覧表の器種・産地・年代は、市川隆之氏のご教示による。）

かわらけ

図示できたのは20点で全体の器形が把握できたものは5点ある。他に58点の小片が出土した。土抗・ピット・集石址・堀址・検出面から出土し、A地区からは2点のみ、B地区ではお・か-10、う-9、



第14図 かわらけ実測図

第7表 かわらけ一覧表

No	器種	法量 (cm)			残存	調整	年代	備考	出土位置
		口径	底径	器高					
1	かわらけ	(8.2)	(4.4)	2.2	口縁1/3 底部1/2	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ→回転糸切り(右)	15C~16C	口唇部に煤付着	P82 No 1
2	かわらけ	-	(7.1)	<2.4>	底部1/5	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ→回転糸切り(左)	15C~16C		D40
3	かわらけ	-	-	<1.3>	底部破片	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ→回転糸切り	15C~16C		D19
4	かわらけ	-	(6.6)	<1.1>	底部1/4	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ→回転糸切り	15C~16C		お-10
5	かわらけ	-	(7.5)	<2.3>	底部1/3	内 ロクロヨコナデ 外 ロクロヨコナデ→回転糸切り後 ヘラナデ	15C末~16C		D24
6	かわらけ	(9.0)	(6.2)	2.3	口縁1/10 底部1/5	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ→底部糸切り	15C末~16C		P101
7	かわらけ	-	(7.0)	<2.0>	底部1/6	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ→回転糸切り	15C末~16C	内面に煤付着?	D2W・P40
8	かわらけ	(9.7)	-	<2.5>	口縁1/10	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	15C末~16C		う-7
9	かわらけ	(11.2)	-	<1.7>	口縁1/12	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	15C後半以降	胎土 精選されている	お-10
10	かわらけ	(12.0)	-	<1.5>	口縁1/10	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ	15C後半以降	胎土 精選されている	A区カクラン
11	かわらけ	-	(6.2)	<0.9>	底部1/4	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ→回転糸切り	15C後半以降	胎土 精選されている	お-10
12	かわらけ	-	(8.8)	<1.6>	底部1/5	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ→回転糸切り(左)後 周縁ヘラナデ	15C後半以降	胎土 精選されている	T1 N礫内
13	かわらけ	-	(6.3)	<1.3>	底部1/6	内 ヨコナデ1 外 ヨコナデ→底部ヘラケズリ	15C後半以降	胎土 精選されている	検出面
14	かわらけ	-	-	<0.9>	底部破片	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ→底部ヘラケズリ	5C後半以降	胎土 精選されている	M2 1層
15	かわらけ	-	-	2.5	口縁~ 底部一 部残存	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ →底部糸切り後ヘラケズリ	15C後半以降	胎土 精選されている	D2 E区 P2
16	かわらけ	(10.2)	(6.5)	2.5	口縁1/12 底部1/8	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ→底部糸切り	15C後半以降		か-10
17	かわらけ	(9.2)	(5.8)	2.3	口縁一部 底部1/6	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ→底部糸切り	15C後半以降		T1 3層
18	かわらけ	-	-	<2.5>	底部一 部残存	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ→底部糸切り	15C後半以降	みこみ部に煤付 着	P100
19	かわらけ	(9.4)	(5.7)	2.1	口縁1/5 底部1/2	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ→底部糸切り	近世(18C?)	硬質	P87
20	かわらけ	-	(8.0)	<1.1>	底部1/8	内 ヨコナデ 外 ヨコナデ→底部ヘラケズリ	近世(18C?)	硬質	D37

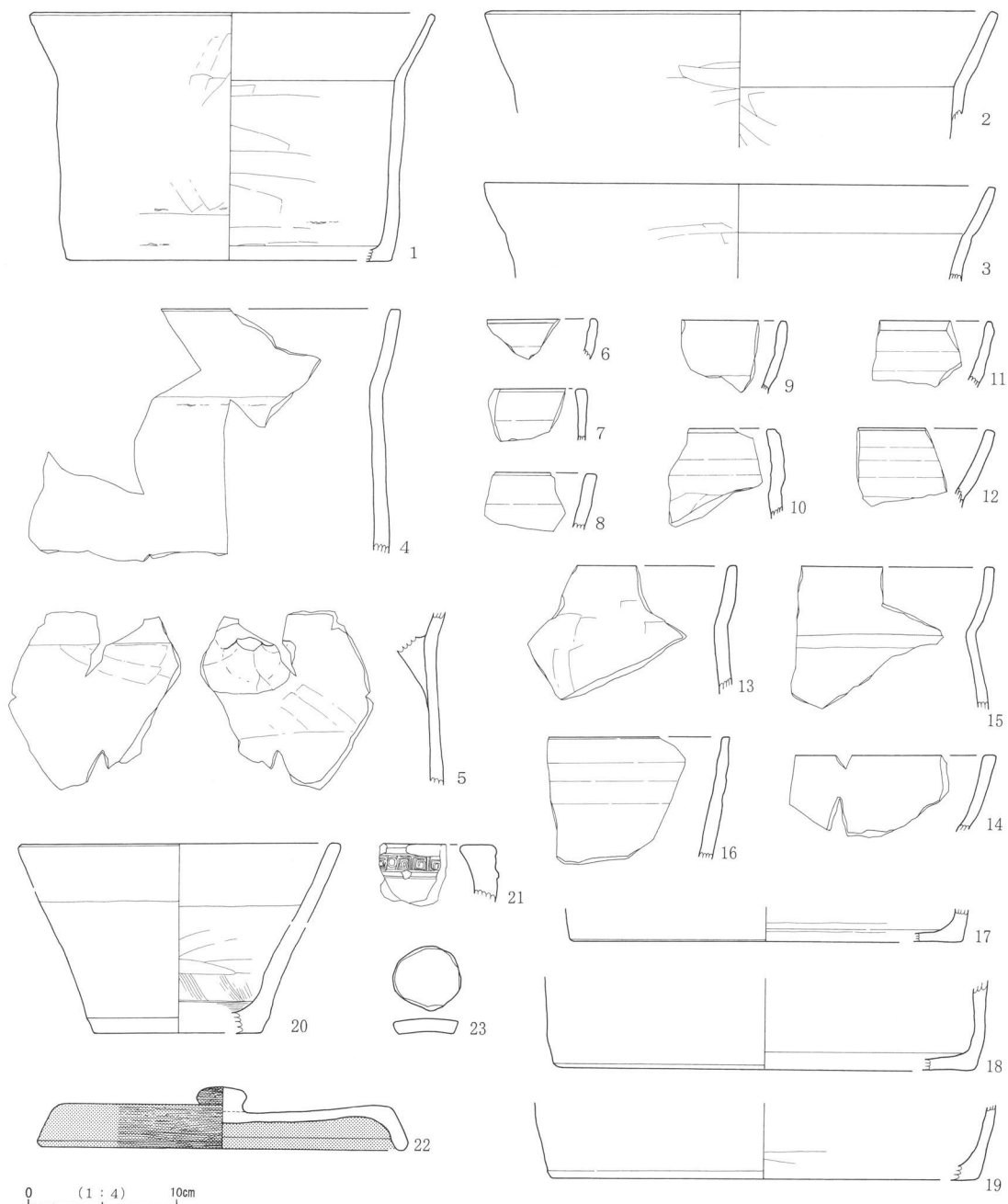
あ・い-7、う-4・5グリッド内から検出された。精選された胎土のもの9~15と土鍋に似た砂粒を含みザラザラしたもの1~8・16~17がある。19・20は硬質なものである。1・6・8・9・15・16・17のように底部より体部が内湾気味に短く立ち上がるものが多い。1・7・18の内面には煤の付着があり灯明皿としての使用が考えられる。19・20が18世紀代、1~18が15~16世紀に納まる。

土鍋等

いわゆる内耳土鍋が多数出土した。図示したのは19点で、第15図1が1点だけ全体の器形が把握できる。出土破片は、総数で340点ある。土抗が102点(A地区83点・B地区19点)、堀址が54点、ピツ

トが15点、竪穴状遺構が4点、集石址が12点、A地区グリッドが35点、B地区グリッドが98点であった。M2号堀址の外側にあたるA地区の土抗とその周辺が、122点を数え集中して出土している。B地区では、グリッドお-17、い・う-6・7、う-8に多い。

形態は、いずれも平底で口縁部外反するもの第15図1～4と口縁部内湾ぎみのもの9～15がある。



第15図 土鍋等実測図

第8表 土鍋等一覧表

No	器種	法 量 (cm)			残存	調 整	年 代	備 考	出土位置
		口径	底径	器高					
1	内耳	(27.2)	(21.8)	16.3	口縁一部 残存 底部1/7	内外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ→底部外周ヨコ ナデ・底部ヘラケズリ	15C中頃		D3 検出面 D13 A区カケラン
2	内耳	(34.2)	-	<8.4>	口縁1/5	内外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	15C中頃		M2 1層
3	内耳	(34.0)	-	<6.3>	口縁1/11	内外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	15C中頃		P101
4	内耳	-	-	<16.1>	口縁破片	内外 胴部ナデ→口縁から胴部上半ヨコナデ 胴部ナデ→口縁ヨコナデ	15C中頃		M2 1層
5	内耳	-	-	-	破片	内外 (ヘラ)ナデ (ヘラ)ナデ	15C中頃		M2 1層
6	内耳	-	-	<2.7>	口縁破片	内外 口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ	15C後半 ~16C前半		D7 S区
7	内耳	-	-	-	口縁破片	内外 口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ	15C後半 ~16C前半		P80
8	内耳	-	-	-	口縁破片	内外 口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ	15C後半 ~16C前半		D12 E区
9	内耳	-	-	-	口縁破片	内外 口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ	15C後半 ~16C前半		M2 1層
10	内耳	-	-	-	口縁破片	内外 口縁ヨコナデ・胴部(ヘラ)ナデ 口縁ヨコナデ→胴部(ヘラ)ナデ	15C後半 ~16C前半		D4
11	内耳	-	-	-	口縁破片	内外 口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ	15C後半 ~16C前半		D7 S区
12	内耳	-	-	-	口縁破片	内外 口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ	15C後半 ~16C前半		D6 W区
13	内耳	-	-	<8.6>	口縁破片	内外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	15C後半 ~16C前半		M2 1層
14	内耳	-	-	<5.1>	口縁破片	内外 口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ	15C後半 ~16C前半		M1 2層
15	内耳	-	-	<9.5>	口縁破片	内外 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ 口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	15C後半 ~16C前半		M1 2層
16	内耳	-	-	<8.1>	口縁破片	内外 口縁ヨコナデ 口縁ヨコナデ	16C中頃		T3
17	内耳	-	(26.1)	<2.3>	底部1/5	内外 ナデ 胴部ヨコナデ・底部ヘラケズリ	中世		M2 1層
18	内耳	-	(27.7)	<6.0>	底部1/6	内外 ナデ 胴部ヨコナデ・底部ヘラケズリ	中世		M1 3層
19	内耳	-	(28.4)	<5.0>	底部1/6	内外 ナデ 胴部ナデ・底部ヘラケズリ	中世		M1 2層
20	播鉢	(21.6)	(11.2)	12.5	口縁1/8 底部1/5	内外 口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ・ 胴部下半から底部押し目 口縁ヨコナデ・胴部ナデ・底部ヘラケズリ・ 底部周縁ヨコナデ	中世	在地産	D3 S区・N区 D12 W区
21	火鉢	-	-	<3.8>	口縁一部 残存	内外 ヘラミガキ ヘラミガキ	中世	外面に雷文を押し 捺す。	え-10
22	蓋	24.8	つまみ径 3.4	4.1	ほぼ完存	内外 ロクロナデ→還元焰で焼く。 ミガキ→還元焰で焼く。	近世	在地産。焙烙か 火消壺の蓋	う-7
23	土製円板	長 4.2	巾 4.5	厚 1.0	完存	内外 ヘラナデ ナデ		内耳の二次利用	D12 E区

15世紀中頃・15世紀後半～16世紀前半であろう。

22は還元焰で焼かれた焙烙か火消壺の蓋でつまみを持つ。ほぼ完形で近世在地産。

陶磁器類

多量の近代・現代のものを除くと、101点が出土した。中世が38点、18世紀以降の近世・幕末が63点、この内73点を第16図に示した。

中世のものとしては、輸入陶磁器の青白磁がある。青磁は1～7の碗6点皿1点の7点があり、12世紀後半～13世紀の1～4、15世紀前半～16世紀の5～7の二つの時期がある。2点の白磁皿も13世紀代と16世紀代のものである。国産品として14世紀前半～15世紀後半の古瀬戸10～15がある。器種は、



第 16 图 陶磁器实测图

第9表 陶磁器一覧表①

No	器種	法量 (cm)			残存	産地	年代	備考	出土位置
		口径	底径	器高					
1	青磁 碗	-	-	<2.1>	口縁破片	龍泉窯	12C後半	内面に劃花文	M1 3層
2	青磁 碗	-	-	-	破片	龍泉窯	13C	外面に連弁文	P9
3	青磁 碗	-	-	-	破片	龍泉窯	13C	外面に連弁文	P3
4	青磁 碗	-	-	<2.9>	口縁破片	龍泉窯	13C	外面に連弁文	M1 3層
5	青磁 碗	-	-	-	口縁破片	中国	15C前半		T2
6	青磁 碗	-	-	-	口縁破片	中国	15C後半	外面に連弁文(細線)	M1
7	青磁 碁笥底皿	-	(5.6)	<1.1>	底部1/5	中国	16C		T1 ヘルト3層
8	白磁 皿(口禿)	-	(5.8)	<0.6>	底部1/4	中国	13C後半		D39
9	白磁 皿	-	(6.4)	<1.6>	底部1/8	中国	16C前半		D15
10	陶器 古瀬戸 灰釉瓶子	-	-	-	破片	瀬戸	14C前半	印花文	T3 EN
11	陶器 古瀬戸 灰釉深皿	-	(11.6)	<1.5>	底部1/7	瀬戸	15C前半	ハケ塗	D19
12	陶器 古瀬戸 灰釉腰折皿	-	4.2	<1.1>	底部完存	瀬戸	15C後半		P43
13	陶器 古瀬戸 灰釉腰折皿	-	5.2	<1.0>	底部完存	瀬戸	15C後半	底部にヘラ記号	い-6
14	陶器 古瀬戸 鉄釉 緑釉小皿	(11.2)	(7.3)	2.5	口縁～ 底部1/11	瀬戸	15C後半	底部糸切り みこみ部媒付着	P75
15	陶器 古瀬戸 鉄釉 天目茶碗	(11.2)	4.0	6.3	口縁～ 底部完存	瀬戸	15C後半		D40
16	陶器 大窯 灰釉丸皿	(9.2)	-	<1.9>	口縁1/14	瀬戸・美濃	16C頭		D3 IV区 A区 カクラン
17	陶器 大窯 灰釉丸皿	(11.4)	-	<1.9>	口縁1/10	瀬戸・美濃	16C頭		こ-14
18	陶器 大窯 灰釉丸皿	-	-	-	口縁破片	瀬戸・美濃	16C頭		D12 I区
19	陶器 大窯 灰釉丸皿	-	-	-	口縁破片	瀬戸・美濃	16C頭		D33
20	陶器 大窯 灰釉碗	-	-	-	口縁破片	瀬戸・美濃	16C頭	21と同一個体か?	こ-13
21	陶器 大窯 灰釉碗	-	-	-	口縁破片	瀬戸・美濃	16C頭	20と同一個体か?	A区 カクラン
22	陶器 大窯 錆釉・鉄釉 天目茶碗	-	-	-	破片	瀬戸・美濃	16C		D3 S区
23	陶器 大窯 錆釉・鉄釉 天目茶碗	-	-	-	破片	瀬戸・美濃	16C		D12 E区
24	陶器 大窯 灰釉皿	(9.8)	-	<1.3>	口縁1/9	瀬戸・美濃	16C		T1 N碟内
25	陶器 大窯 灰釉皿	-	-	-	口縁破片	瀬戸・美濃	16C		D26
26	陶器 大窯 灰釉皿	-	-	-	口縁破片	瀬戸・美濃	16C		DM1
27	陶器 大窯 灰釉折縁皿	-	-	<1.1>	口縁破片	瀬戸・美濃	16C末		う-7
28	陶器 大窯 灰釉折縁皿	-	-	<0.6>	口縁破片	瀬戸・美濃	16C末		T1
29	陶器 甕	-	-	-	破片	常滑	中世		お-11
30	陶器 甕	-	-	-	破片	常滑	中世		T1 い-6

第10表 陶磁器一覧表②

No	器種	法量 (cm)			残存	産地	年代	備考	出土位置
		口径	底径	器高					
31	陶器 甕	-	-	-	破片	常滑	中世		M1 2層
32	陶器 甕	-	-	-	破片	常滑	中世		カクラン
33	陶器 甕	-	-	-	破片	常滑	中世		T 1
34	陶器 甕	-	-	-	破片	常滑	中世		D3 S区
35	陶器 甕	-	-	-	破片	常滑	中世		う-7
36	陶器 甕	-	-	<4.9>	底部破片	常滑	中世		お-9
37	陶器 灰釉皿	12.2	5.8	2.8	完存	瀬戸・美濃	18C	みこみ部に染付	T 1 う-6
38	陶器 灰釉皿	(9.4)	4.2	1.9	口縁1/5 底部完存	瀬戸・美濃	18C	トチン痕あり	M 2 2層
39	陶器 灰釉せんじ茶碗	(9.8)	-	<3.8>	口縁1/5	瀬戸・美濃	18C	外面に染付	お-9・お-10
40	陶器 灰釉せんじ茶碗	(11.4)	-	<3.9>	口縁1/5	瀬戸・美濃	18C		D33 No3
41	陶器 鉄釉碗or鉢	-	5.8	<2.2>	底部完存	瀬戸・美濃	18C		か-11
42	陶器 灰釉灯明皿	(11.0)	(3.8)	2.0	口縁1/4 底部1/4	瀬戸・美濃	18C		DM1
43	陶器 灰釉呉器手碗	-	5.0	<4.3>	底部完存	唐津	18C		う-7
44	陶器 灰釉呉器手碗	-	(5.0)	<2.8>	底部1/3	唐津	18C		う-7
45	磁器 染付徳利	-	-	-	破片	伊万里	18C		DM1
46	陶器 灰釉雪平鍋	-	-	-	口縁破片	在地	18C後半	川越石焼?	検出面
47	陶器 灰釉鉢	-	4.8	<4.2>	底部3/4	在地	18C後半	川越石焼?	D18
48	陶器 灰釉鉢	(11.2)	-	<5.1>	口縁1/3	在地	18C後半	川越石焼?	D33 No4
49	陶器 染付陶胎碗	-	(4.7)	<4.0>	口縁1/2	伊万里	18C後半~ 19C前半		T 1 う-6
50	陶器 染付皿	(13.4)	(8.2)	3.6	口縁一部 底部1/4	伊万里	近世		Ta1 フク土
51	磁器 染付皿	-	7.8	<1.5>	底部3/4	伊万里	近世		DM1
52	磁器 染付皿	-	(8.2)	<2.0>	底部1/6	伊万里	近世		DM1
53	磁器 染付碗	(11.6)	-	<3.2>	口縁1/7	伊万里	近世		M 2 2層
54	磁器 染付碗	(7.6)	-	<1.7>	口縁1/9	伊万里	近世		D18
55	磁器 染付碗	(7.9)	-	<2.1>	口縁1/8	伊万里	近世		Ta1
56	磁器 染付碗	(9.4)	(4.0)	5.4	口縁1/6 底部1/8	伊万里	近世		池 6層
57	磁器 染付碗	(10.2)	(4.0)	5.3	口縁一部 底部1/4	伊万里	近世		う-8
58	磁器 染付碗	(10.2)	-	<3.8>	口縁1/3	伊万里	近世		う-8
59	磁器 染付碗	(6.6)	(3.6)	5.1	口縁1/3 底部一部	伊万里	近世		う-7
60	磁器 染付碗	(7.0)	-	<4.5>	口縁1/5	伊万里	近世		D15
61	磁器 染付碗	(7.6)	-	<3.5>	口縁1/6	伊万里	近世		検出面
62	磁器 染付碗	(8.0)	-	<2.7>	口縁1/10	伊万里	近世		う-8
63	磁器 染付皿	(17.2)	(10.8)	3.6	口縁1/10 底部1/6	伊万里	19c		Ta1

第11表 陶磁器一覧表③

No	器種	法量 (cm)			残存	産地	年代	備考	出土位置
		口径	底径	器高					
64	磁器 染付碗	(10.4)	(4.0)	5.5	口縁1/2 底部1/2	伊万里	19C		い-9
65	磁器 染付碗	(11.2)	-	4.9	口縁1/4	伊万里	19C		検出面
66	磁器 染付碗	(9.9)	(3.7)	5.5	口縁1/3 底部1/2	伊万里	19C		い-9
67	陶器 鉄釉台脚付灯明具	4.5	4.5	5.0	口縁4/5 底部完存	在地?	幕末		検出面
68	陶器 錆釉灯明皿	9.3	4.3	2.0	口縁7/8 底部完存	在地	幕末~近代	外面 釉を拭き取った痕あり	DM1
69	陶器 錆釉灯明皿	(10.6)	(4.6)	1.7	口縁1/3 底部1/2	在地	幕末~近代	外面 釉を拭き取った痕あり	う-8
70	陶器 錆釉灯明皿	(10.8)	-	<2.2>	口縁1/2	在地	幕末~近代		う-6
71	陶器 錆釉灯明皿	(9.8)	-	<1.9>	口縁1/4	在地	幕末~近代	外面 釉を拭き取った痕あり	え-10
72	陶器 錆釉灯明皿	(11.2)	4.2	2.3	口縁1/4 底部2/3	在地	幕末~近代	外面 釉を拭き取った痕あり	け-13
73	陶器 錆釉蓋	(8.5)	つまみ径 -	<1.4>	口縁1/2	在地	幕末~近代		DM1

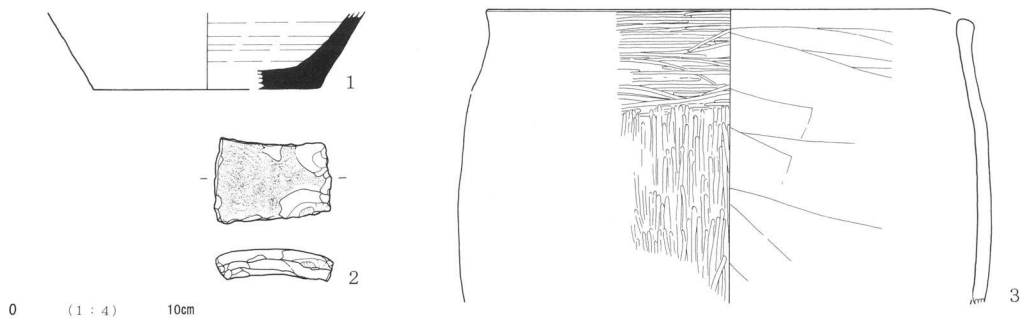
瓶類・深皿・腰折皿・小皿・天目茶碗がある。16世紀代の大窯製品は、16~28がある。器種としては、丸皿・碗・天目茶碗・皿・折縁皿がある。中世の常滑29~36は、いずれも甕片である。

近世では、18世紀代の瀬戸・美濃製品が7点あり、37~42の器種は、灰釉皿・灰釉せんじ茶碗・灯明皿・鉄釉碗がある。さらに、18世紀代の唐津製品として43・44と破片6点の灰釉呉器手碗がある。18世紀後半~19世紀代の伊万里は49~66と破片20点があり、器種は陶器染付陶胎碗・染付徳利・皿・碗がある。46~48は、18世紀後半の在地窯川越石焼であろうか、灰釉雪平鍋・灰釉鉢がある。次に幕末~近代のものとして、在地窯の製品67~73の鉄釉台脚付灯明皿具・鉄釉灯明皿・鉄釉蓋がある。

出土した陶磁器類は、輸入陶磁器の12~13世紀代、国産陶磁器類を主体に少量の輸入陶磁器を含む14~16世紀代、国産陶磁器特に伊万里製品が主体を占める18世紀以降の大きく3時期に分けられる。出土分布は、特に14~16世紀の瀬戸・美濃が、土鍋と同様にA地区に多く出土している。18世紀以降のものは、A地区のう-7・8グリッドに集中する。

第12表 須恵器・土師質土器一覧表

No	器種	器形	法量 (cm)			残存	調整	備考	出土位置
			口径	底径	器高				
1	須恵器	甕	-	(14.0)	<4.7>	底部1/6	内 外 ロクロナデ 胴部ナデ・底部糸切り後ナデ	内外面 自然釉付着	お-10
2	須恵器		長 5.3	巾 7.3	厚 1.5		内 外 ヘラナデ タタキメ	甕の二次利用	A区 カクラン
3	土師質土器	火鉢類	29.9	-	(18.0)	口縁3/4	内 外 ヘラナデ ミガキ	近世~近代	M2 1層 P80・う-6



第17図 須恵器・土師質土器実測図

石播鉢・臼・茶臼

本遺跡から、石播鉢2点、臼9点（上臼4点、下臼5点）、茶臼2点（上臼・下臼各1点）が出土した。いずれも欠損品である。臼・茶臼ともほとんどが欠損部分が中心孔を通るように割れている。

第18図1・2の石播鉢は平らな底部から直線的に立ち上がり、内面の形状はなめらかである。2点ともに外面に加工痕のノミ痕が見られる。

臼の目は切線主溝型が多く、3の上臼が目なし臼、5・6の上臼が放射型とみられる。目の分画は、6分画が4・7・8、8分画が9・11と考えられる。茶臼は2点とも明確でない。使用石材は、安山岩が主である。出土遺構は、土抗から3点、集石址から7点である。集石址のものは、廃棄された臼が礫と同様な意図で集積されたのであろう。

凹石

第20図の5点が出土した。1・2は、搗き臼といえようか。いずれも安山岩で、5を除いてT1号集石址からの出土である。臼と同様に礫群内から検出された。

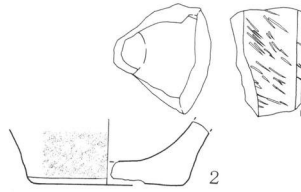
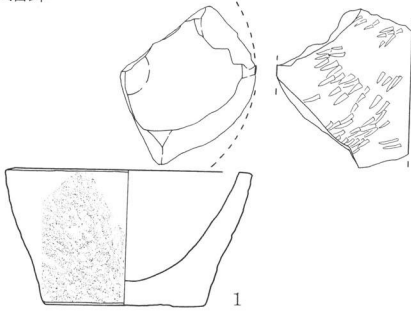
砥石

第21図の6点が出土した。4がA地区のD10号土坑、3・5がT1号集石址から出土した。2・4は、両端が残り、成形時の加工痕が残っている。3が砂岩で他の5点は、凝灰岩である。

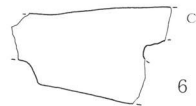
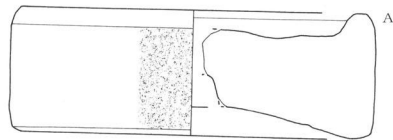
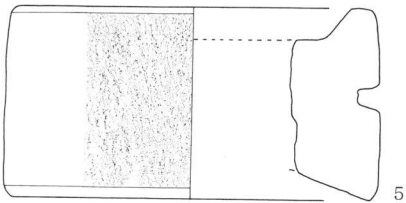
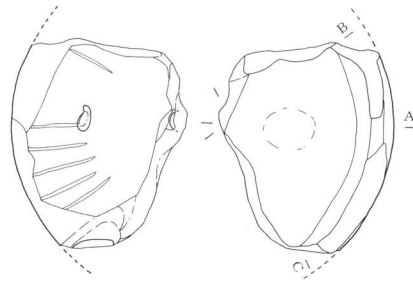
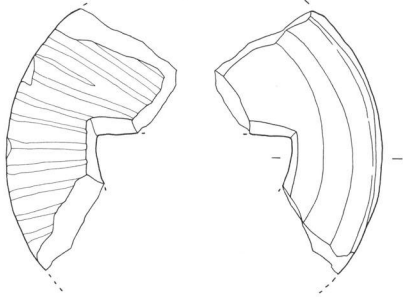
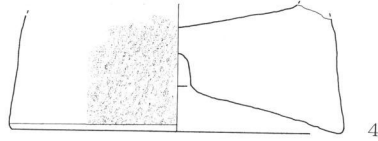
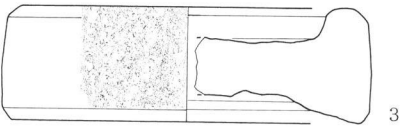
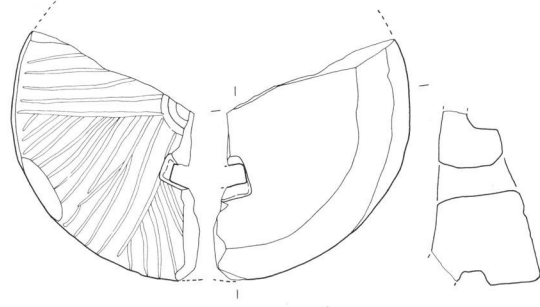
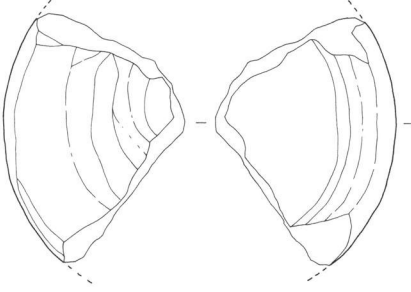
第13表 石播鉢・石臼・茶臼一覧表

No	器種	法量			石質	ふくみ	心棒直径	備考	出土位置
		口径 (cm)	底径 (g)	器高 (g)					
1	石播鉢	口径 (23.0) 底径 (15.0)	12.5	905	輝石安山岩	-	-	ノミ痕あり	あ-7
2	石播鉢	底径 (14.0)	5.9	325	輝石安山岩	-	-	ノミ痕あり	T3 SW
3	石臼 (上臼)	(34.4)	10.6	3250	角閃石安山岩	2.5	-		T2
4	石臼 (上臼)	(31.0)	<11.8>	4630	輝石安山岩	3.6	(2.2)	供給口形状 長方形 挽き木孔形状 長方形	T3
5	石臼 (上臼)	(35.0)	17.7	5460	黒色多孔質安山岩	<2.5>	-	供給口形状 長方形 挽き木孔形状 長方形	D37 No1
6	石臼 (上臼)	(33.8)	11.6	3925	輝石安山岩	2.7	-	挽き木孔形状 長方形 2ヶ所有り	T1 う-6
7	石臼 (下臼)	(30.2)	8.8	3260	輝石安山岩	2.2	(2.0)		T3 SW
8	石臼 (下臼)	(31.8)	14.2	7430	輝石安山岩	2.5	(2.0)		え-6
9	石臼 (下臼)	28.8	12.2	6770	輝石安山岩	2.6	3.0		T1 う-6
10	石臼 (下臼)	(21.0)	<3.5>	50	輝石安山岩	<0.2>	-		D7 S区
11	石臼 (下臼)	不明	12.1	3060	凝灰岩	<0.8>	-		カクラン
12	茶臼 (上臼)	(34.4)	8.8	2030	輝石安山岩	-	-		T1 う-6
13	茶臼 (下臼)	(18.0)	<10.2>	2340	輝石安山岩	0.6	1.9		D21 No1

石播鉢



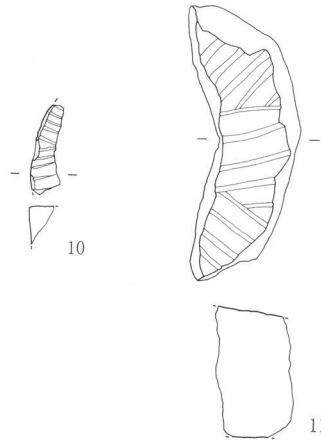
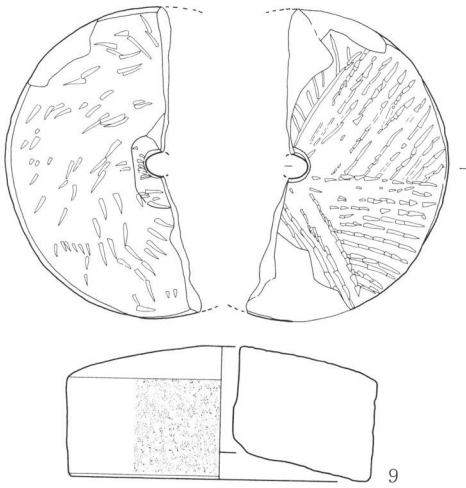
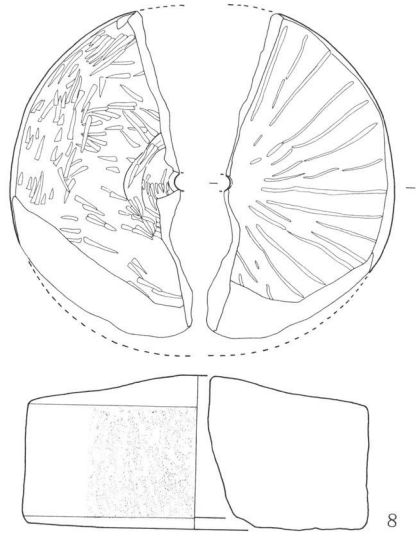
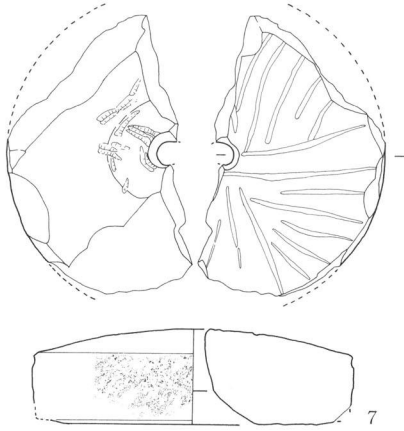
石臼 (上臼)



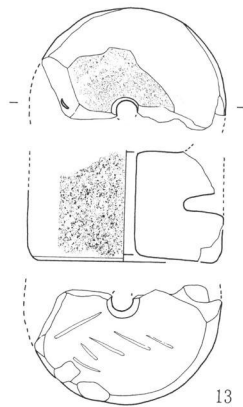
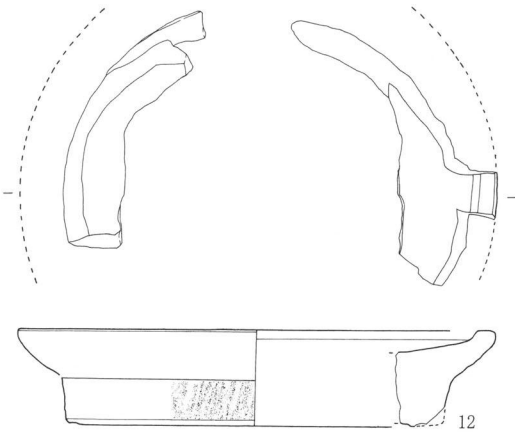
0 (1:6) 15cm

第18図 石播鉢・臼 (上臼) 実測図

石臼 (下臼)



茶臼

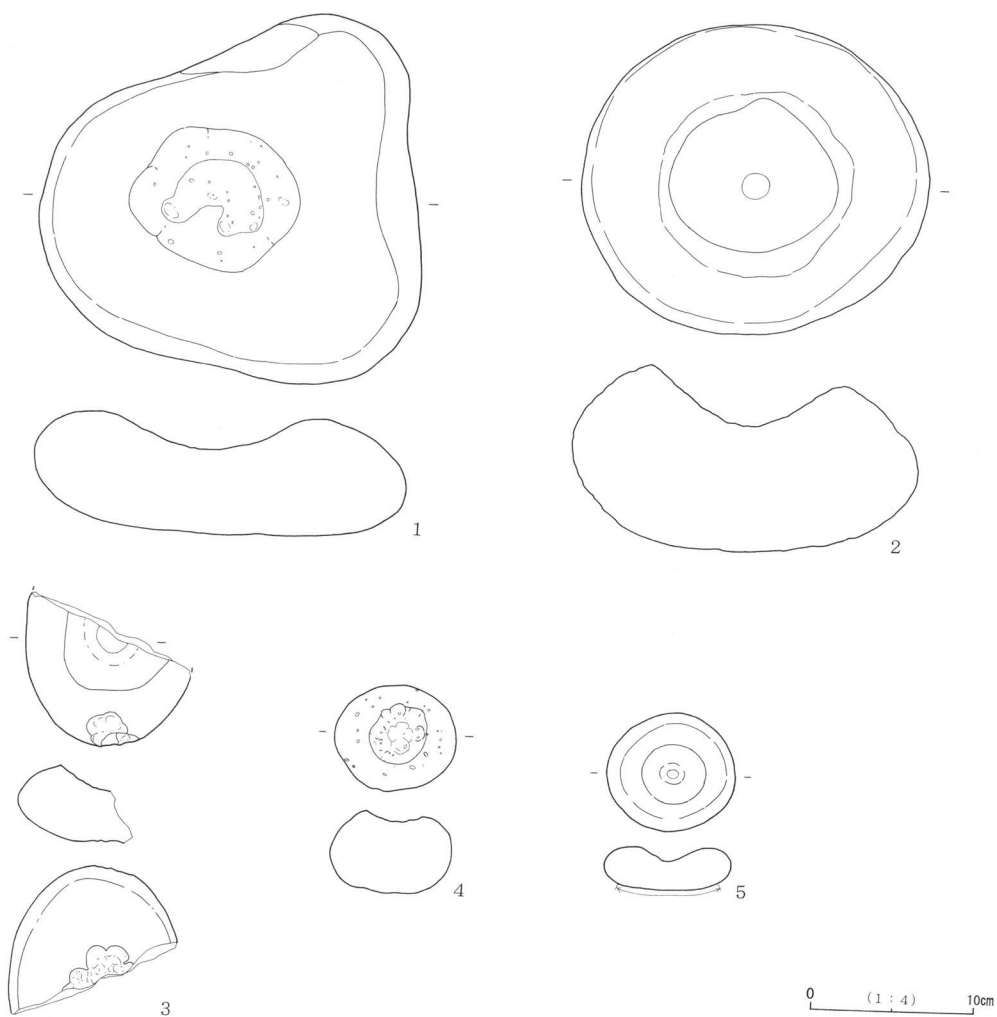


0 (1:6) 15cm

第19图 白 (下臼) · 茶臼实测图

第14表 凹石一覧表

No	器種	法量				石質	備考	出土位置
		長 (cm)	巾 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)			
1	凹石	22.5	23.5	7.3	5.700	輝石安山岩		T1 い-6
2	凹石	188	21.2	11.2	5.490	輝石安山岩		T1 う-5
3	凹石	<9.3>	<10.2>	4.6	430	輝石安山岩	敲打痕あり	T1 い-6
4	凹石	6.5	7.5	5.1	310	輝石安山岩		T1 う-6
5	凹石	7.3	7.8	2.6	230	輝石安山岩		お-9



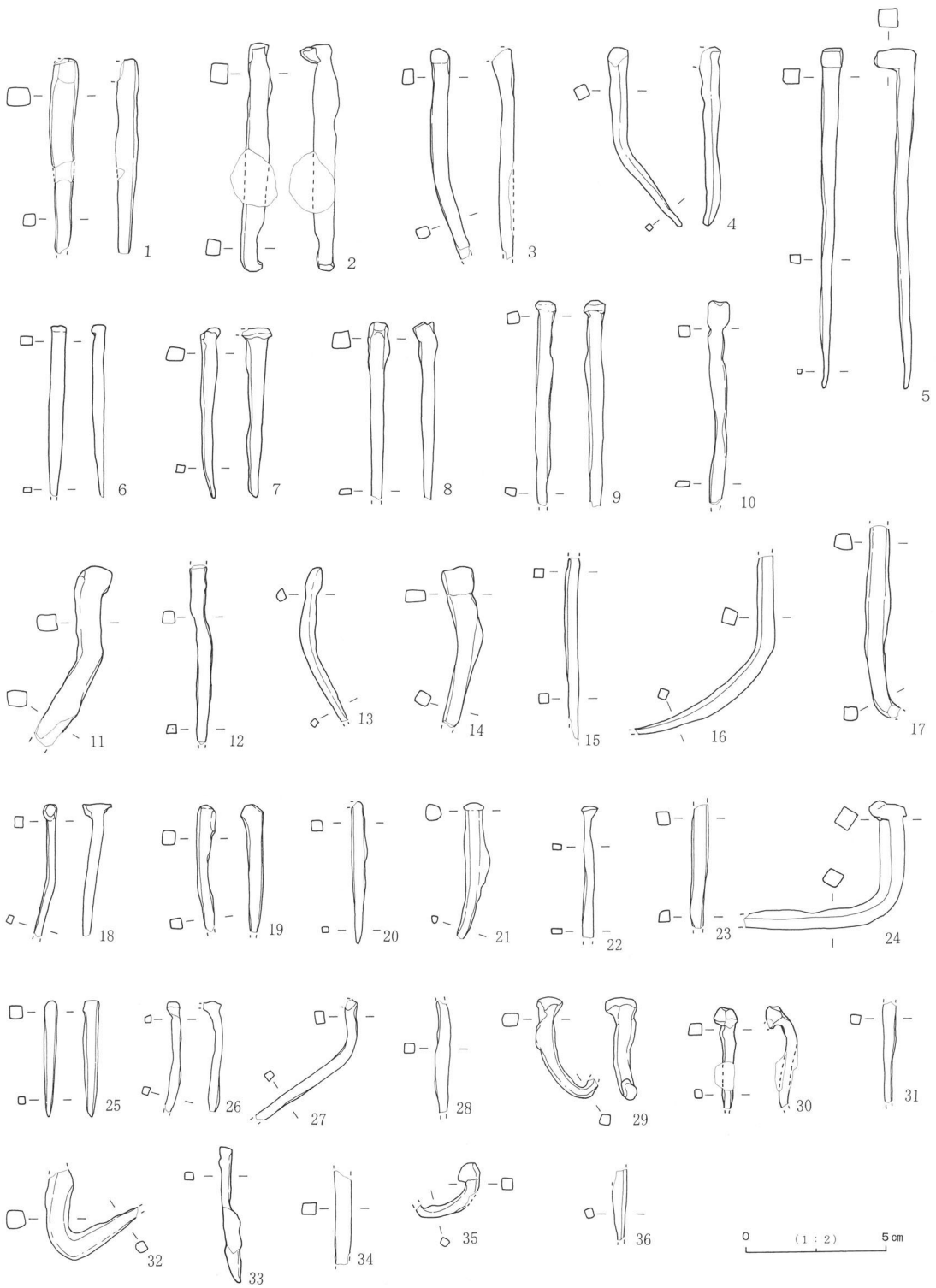
第20図 凹石実測図

第15表 砥石・不明石製品一覧表

No	器種	法量				石質	備考	出土位置
		長 (cm)	巾 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)			
1	砥石	11.7	5.9	3.0	370	凝灰岩		お-9
2	砥石	10.4	4.4	2.9	250	凝灰岩		T1
3	砥石	12.6	5.7	3.3	330			T3 か-11
4	砥石	15.8	5.1	2.7	420	凝灰岩		D10
5	砥石	8.3	5.7	3.1	300	凝灰岩		T1 う-6
6	砥石	<3.4>	<3.9>	<2.0>	25.3	凝灰岩		う-7
7	不明石製品	<5.9>	<5.4>	0.25	12.7	粘板岩	石盤か?	DM1
8	不明石製品	<3.0>	<2.9>	0.3	4.1	粘板岩	石盤か?	う-7
9	不明石製品	<6.7>	<4.1>	0.25	12.1	粘板岩	石盤か?	DM1
10	不明石製品	<3.0>	<2.7>	<0.5>	4.5	粘板岩	石盤か?	う-8
11	不明石製品	<3.6>	<3.7>	0.3	6.9	頁岩	石盤か?	D32
12	不明石製品	<3.7>	<2.7>	0.2	3.2	粘板岩	石盤か?	DM1
13	不明石製品	9.2	4.9	0.8	64.5	雲母片岩		T3 SW
14	不明石製品	直径 (12.4)		7.2	530	石英安山岩		T3 SW



第21図 砥石・不明石製品実測図



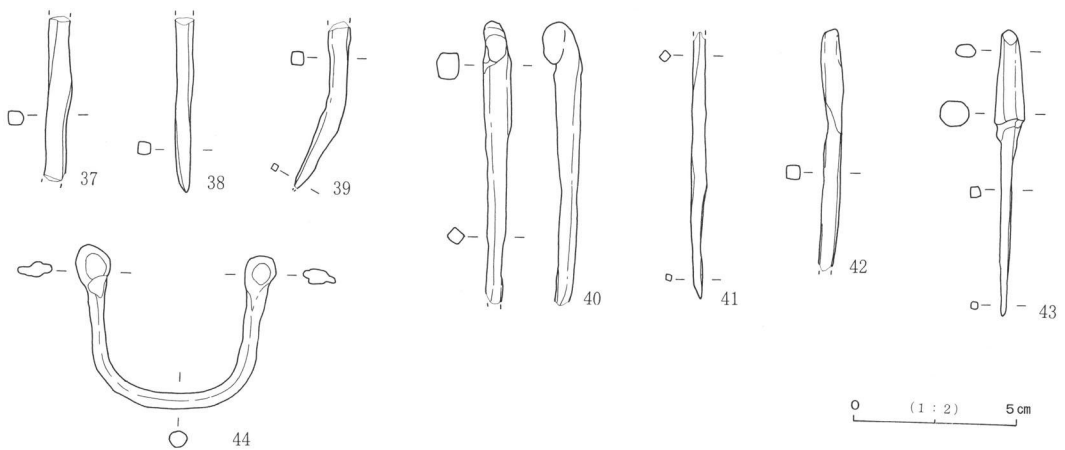
第22図 鉄製品実測図①

鉄製品

中世・近世と考えられる鉄製品が44点出土した。角釘が42点、鉄鎌1点、箆筒の把手1点である。角釘は、ほとんどがDM1号地下室とその周辺グリッドからの出土である。第23図43の鉄鎌はD24号土坑から、44の箆筒の把手と思われるものはDM1号地下室から出土した。

第16表 鉄製品一覧表

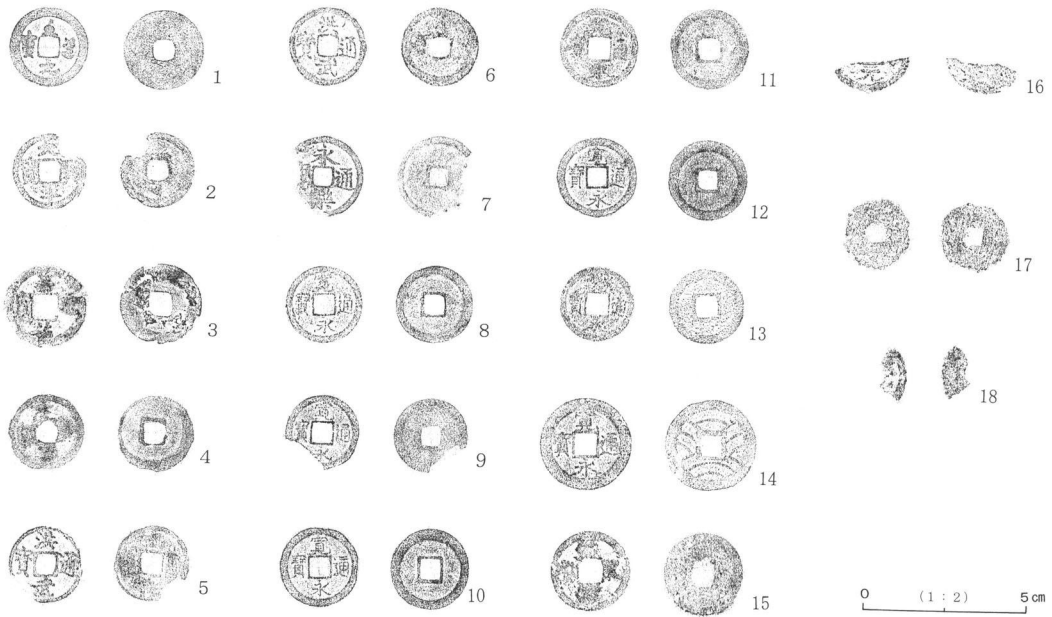
No	器種	法量				備考	出土位置	No	器種	法量				備考	出土位置
		長 (cm)	巾 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)					長 (cm)	巾 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
1	角釘	<6.9>	0.9	0.7	9.2		DM1	23	角釘	<4.4>	0.5	0.5	3.3		う-8
2	角釘	8.2	0.6	0.7	13.1		う-6	24	角釘	<8.9>	0.7	0.6	15.1		う-8
3	角釘	<7.5>	0.4	0.5	6.8		DM1	25	角釘	4.1	0.5	0.5	1.7		え-8
4	角釘	7.1	0.4	0.5	4.6		え-9	26	角釘	<3.9>	0.2	0.2	1.6		う-8
5	角釘	12.1	0.6	0.5	14.5	完存	D17	27	角釘	<6.0>	0.3	0.4	2.8		DM1
6	角釘	<6.1>	0.4	0.3	4.4		DM1	28	角釘	<3.9>	0.4	0.4	1.9		え-9
7	角釘	6.0	0.5	0.7	3.5		T1	29	角釘	<5.5>	0.5	0.7	3.4		D9
8	角釘	<6.3>	0.7	0.7	6.0		え-8	30	角釘	<3.6>	0.5	0.4	1.7		う-8
9	角釘	<7.3>	0.5	0.5	5.9		DM1	31	角釘	<3.6>	0.4	0.4	1.7		カクラン
10	角釘	<7.3>	0.4	0.4	5.6		カクラン	32	角釘	<5.3>	0.6	0.6	5.4		い-7
11	角釘	<7.1>	0.6	0.7	11.4		T1 う-6	33	角釘	<2.9>	0.3	0.3	2.3		う-8
12	角釘	<6.4>	0.5	0.4	3.5		う-8	34	角釘	<3.4>	0.6	0.4	3.3		T3 トレンチ
13	角釘	<5.8>	0.3	0.3	4.5		カクラン	35	角釘	<3.3>	0.4	0.4	1.1		DM1
14	角釘	<5.7>	0.7	0.5	8.5		う-8	36	角釘	<2.5>	0.3	0.3	0.7		DM1
15	角釘	<6.5>	0.3	0.3	5.5		DM1	37	角釘	<5.0>	0.5	0.4	3.4		DM1
16	角釘	<9.1>	0.5	0.5	7.3		T1 う-6	38	角釘	<5.3>	0.4	0.4	2.9		DM1
17	角釘	<7.1>	0.7	0.6	3.3		え-9	39	角釘	<5.4>	0.4	0.4	2.7		DM1
18	角釘	<4.9>	0.3	0.4	7.1		DM1	40	角釘	<8.5>	0.8	0.8	9.1		DM1
19	角釘	<4.5>	0.4	0.5	3.8		DM1	41	角釘	<8.1>	0.3	0.3	4.1		え-9
20	角釘	5.1	0.4	0.4	2.4		え-9	42	?	<7.3>	0.4	0.4	5.4		DM1
21	角釘	<4.8>	0.6	0.6	3.9		え-9	43	鉄鎌	8.7	0.9	0.8	9.3	完存	D24
22	角釘	<4.7>	0.3	0.2	1.5		え-8	44	箆筒の把手	4.9	6.2	5.0	9.4		DM1



第23図 鉄製品実測図②

古銭

本遺跡から18枚の古銭が出土した。渡来銭には、至道元寶（北宋）・嘉祐通寶（北宋）・元祐通寶（北宋）・大平興寶（安南）・洪武通寶（明）・永楽通寶（明）がある。寛永通宝は、新寛永通宝が6枚と背に11波の波紋を持つ四文銭（第24図14）が1枚出土した。寛永通宝の四文銭で1768年（明和5）鋳



第24図 古銭拓影図

第17表 古銭一覧表

No	銭名	初鋳年	時代	法量		備考	出土位置
				直径 (cm)	重さ (g)		
1	至道元寶	995	北宋	2.4	2.4		D12 E区
2	大平興寶	970	安南	2.3	1.5		D7 S区
3	嘉祐通寶	1056	北宋	2.5	1.7		P5 No1
4	元祐通寶	1086	北宋	2.4	2.3		け-13
5	洪武通寶	1368	明	2.35	1.5		D3
6	洪武通寶	1368	明	2.4	2.4		い-7
7	永楽通寶	1408	明	2.5	1.6		D1 S区
8	寛永通寶	新寛永	江戸	2.4	2.5		T1
9	寛永通寶	新寛永	江戸	2.3	3.1		T1 う-6
10	寛永通寶	新寛永	江戸	2.5	1.9		T1 う-6
11	寛永通寶	新寛永	江戸	2.45	2.5		え-3 II層
12	寛永通寶	新寛永	江戸	2.5	4.0		お-10
13	寛永通寶	新寛永	江戸	2.3	2.4		け-13
14	寛永通寶	1769	明和	2.8	5.1	背に11波の波紋。四文銭。	い-6
15	〇〇〇寶	-	-	2.5	2.6		D28 No1
16	〇元〇〇 〇〇元〇	-	-	-	0.7		D3 検出面
17	〇〇〇〇	-	-	2.2	1.1		T3 か-10
18	?	-	-	-	0.6		D12 E区

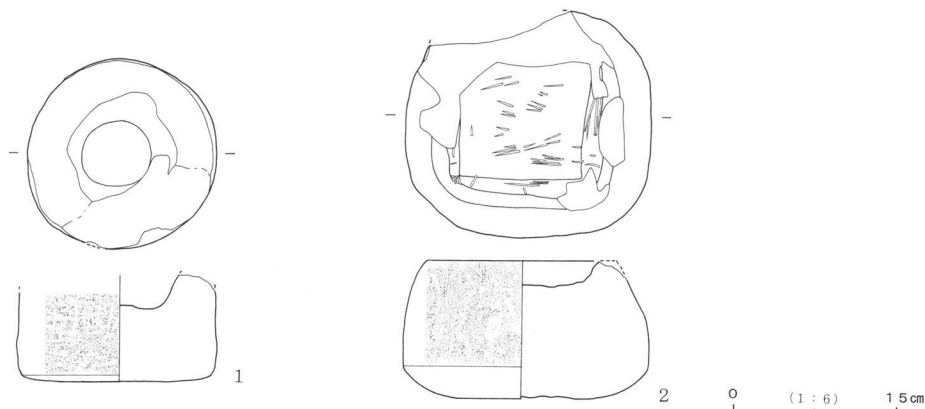
造のものは波紋が21波で、1769年から11波に変更されたという。渡来銭6枚の内5枚がA地区から、新寛永通宝7枚の内6枚がB地区（T1号集石址とその周辺）から出土している。

石製品

第25図1の外側は平らで安定した厚みのある底部から直立し、内側は僅かな凸状の底部から緩やかに開き気味に立ち上がる。成形時の加工痕が外側に窺える。底径17 cm、残存高9.8 cm、重さ2,160 gを測る。黒色多孔質安山岩であるが、内側は摩耗して滑らかである。欠損する上部の一部に使用面が残っており、片口の石播鉢とも考えられる。2も多孔質安山岩で図上の下面は円形だが、側面と上面は方形に加工されている。側面には成形時の帯状と筋状の加工痕が見られる。下面は安定感がないが平坦である。20個以上の不整形な小孔が認められる。上面には長辺12 cm短辺11 cmの、面が平らな方形の窪みが設けられている。幅0.2 cmで浅く直線に刻んだ線状の溝で方形をかたどっている。煤のような付着物が見える。この方形の窪みを柄とみるならばある石造塔の一部を構成するものであろうか。

第18表 石製品一覧表

No	器種	法量				石質	備考	出土位置
		長 (cm)	巾 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)			
1	石播鉢	直径	17.6	9.8	2,160	黒色多孔質安山岩		T3 か-11
2	不明	<20.8>	22.7	<12.7>	4,300	黒色多孔質安山岩		T3 上

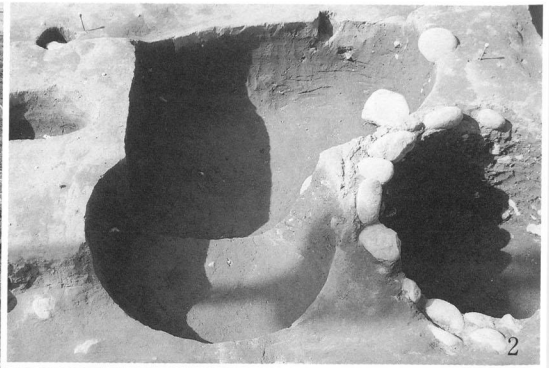


第25図 石製品実測図

第IV章 まとめ

江戸時代の絵図寛延4年（1751）の「信州佐久郡野沢原両村図」（第3図）には、土塁を一部伴う野沢館跡の外郭が描かれている。野沢館跡は県史跡に指定されている全周土塁と水路が巡る主郭と絵図や水路などから想定される外郭とで構成される回字形の館といわれてきた。平成14年度の「城山公園整備事業」に伴う調査で、主郭を巡る水路が堀跡と確認され、主郭の方形区画が14世紀以降に成立したとしている。今回の調査地点は、外郭と想定されている北辺と西辺にトレンチを入れることになった。結果は、幾多の予想どおり2地点で堀跡と考えられる溝が検出された。ただ、近世末から近現代の削平整地により深く攪乱を受けていて、想定される土塁の痕跡は窺えなかった。外郭の北辺にあたるM1号堀址の覆土下層からは12世紀後半・13世紀の青磁と中世の土鍋片が、上層から15世紀後半～16世紀前半の土鍋・中世の常滑甕が出土した。西辺のM2号堀址は、流水の影響を受け続けており、西側半分は現在の用水路と重なっていることもあり、存続時期等の明確な資料が得られなかった。

1. A 地区全景
2. D1·D10



3. D2



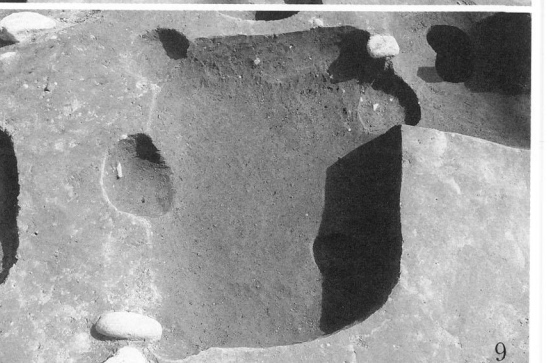
4. D3
5. D4



6. D5
7. D6

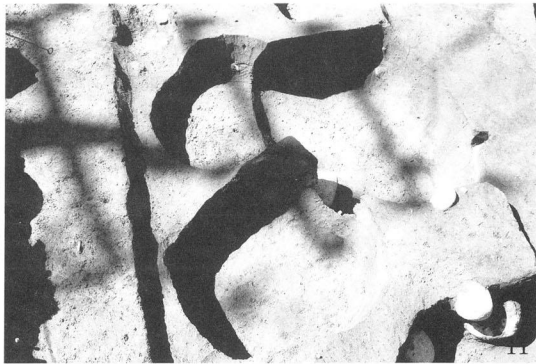


8. D7
9. D8





10



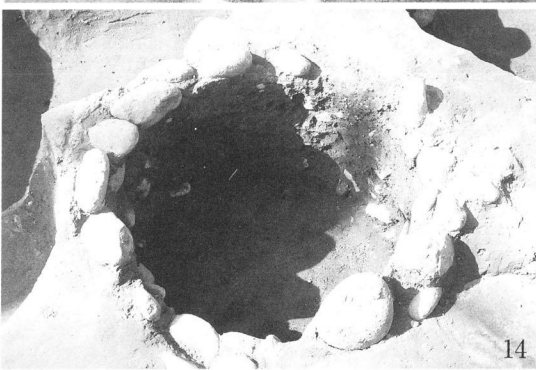
10. D9
11. D1・D10・D11



12



12. D12
13. D11 セクション



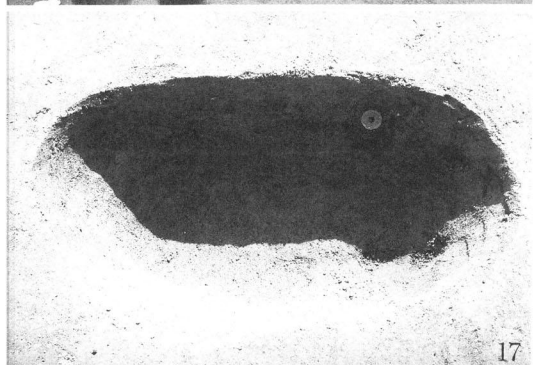
14. D11



15



15. D13
16. D11 掘り方



17



17. P5
18. D14

19. D15

20. D15



21. D15 掘り方

22. D16



23. D17

24. D18



25. D19

26. D20



27. D20 掘り方

28. D21





29

29. D22



30

30. D23



31

31. D24



32

32. D24



33

33. D25



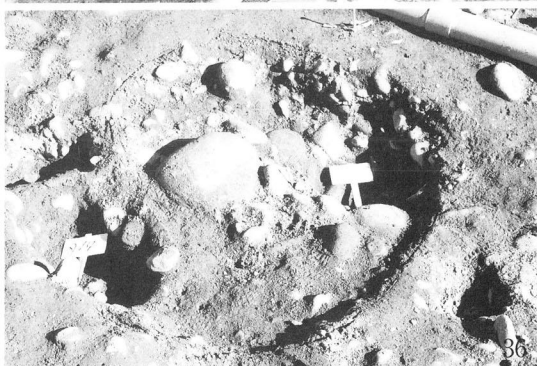
34

34. D26



35

35. D27



36

36. D28



37

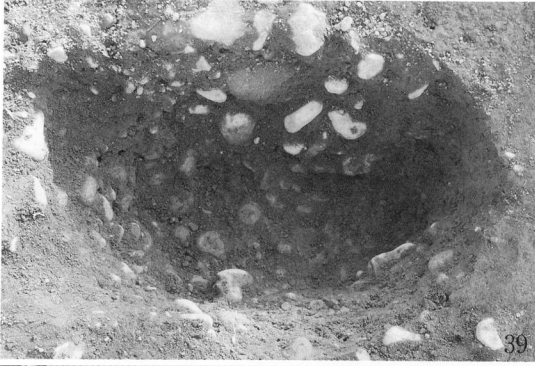
37. D29



38

38. D30

39. D31



40. D32



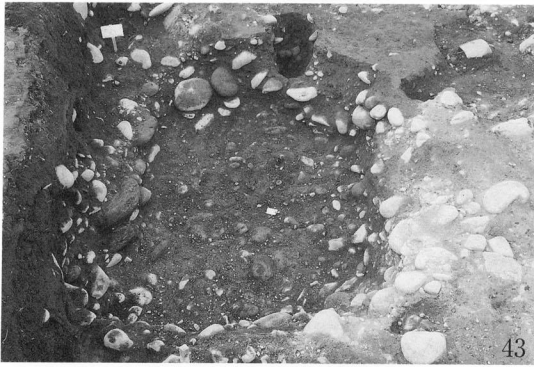
41. D33



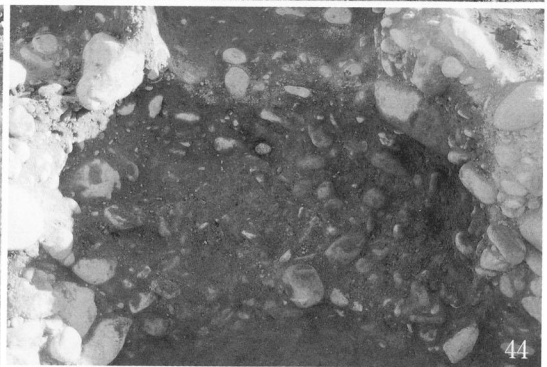
42. D34



43. D35



44. D36



45. D37

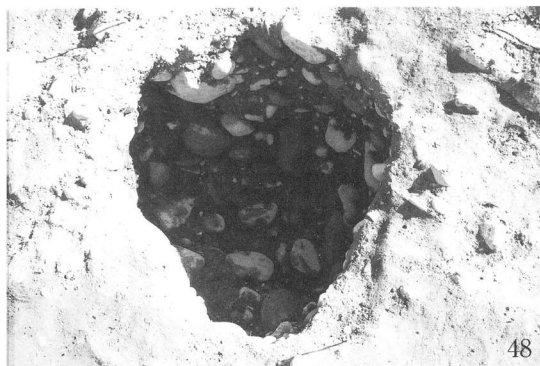


46. D38



47. D40





48



49

48. D39
49. Ta1 セクション



50



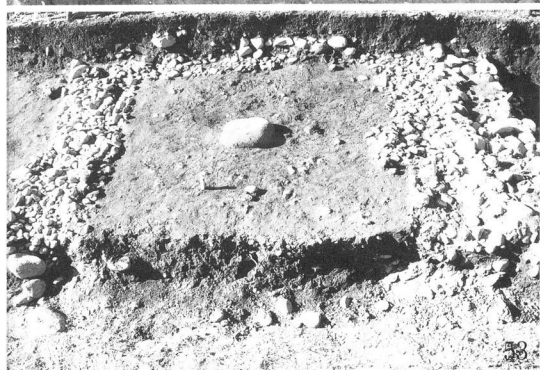
51

50. Ta1
51. Ta1 石組

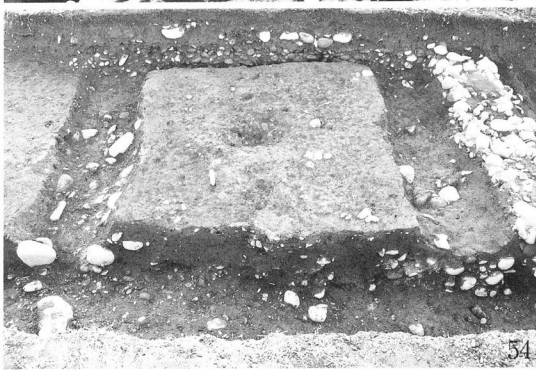


52

52. Ta2



53



54

53. T1
54. T1 掘り方



55



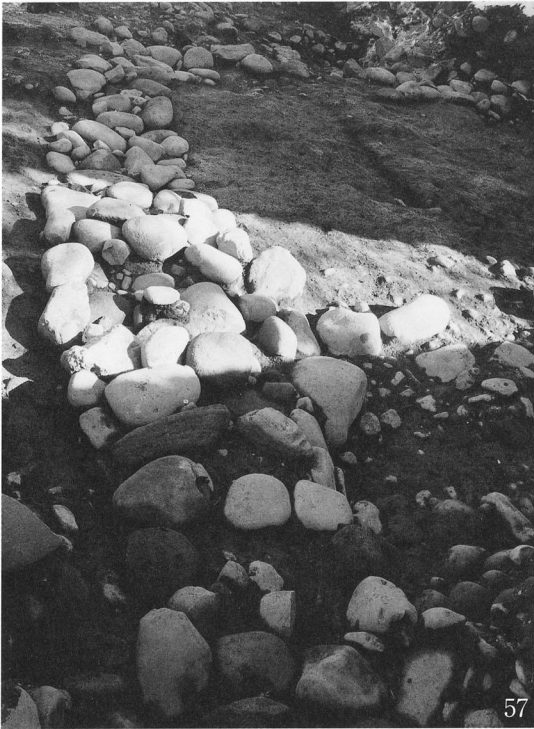
56

55. T2
56. T2 掘り方

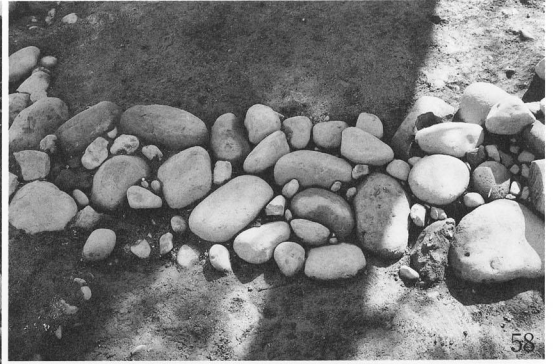
57. T3

58. T3

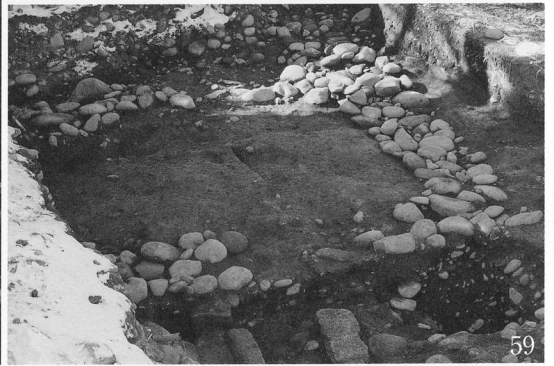
59. T3



57



58



59

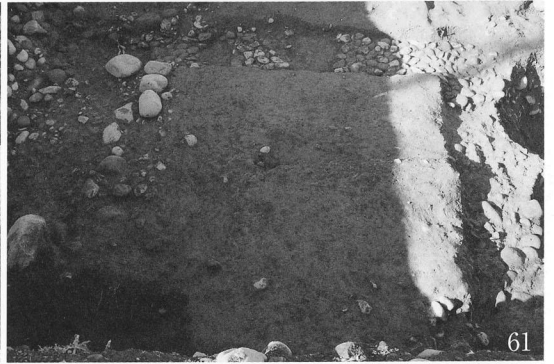
60. DM1

セクション

61. T3 掘り方



60



61

62. DM1

63. DM1

64. M1

セクション



62



63



64



65



66



67



68



69

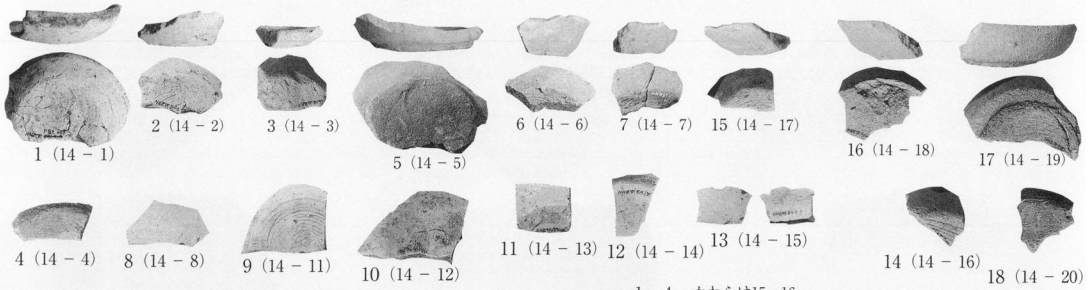
65. M1

66. M1

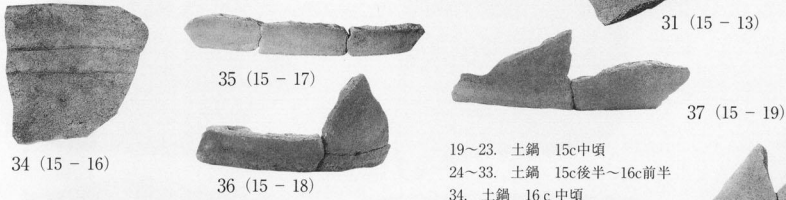
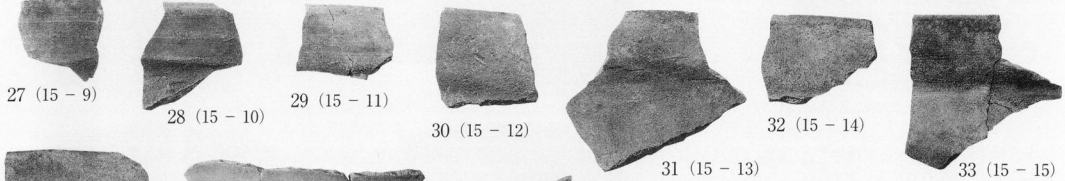
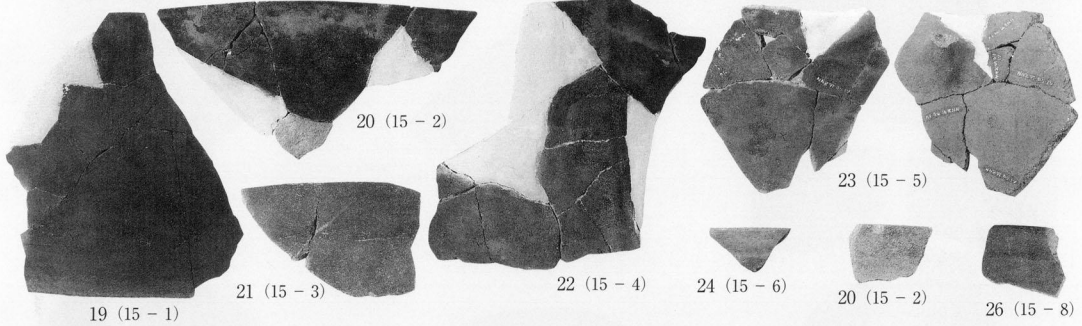
67. M1

68. M1

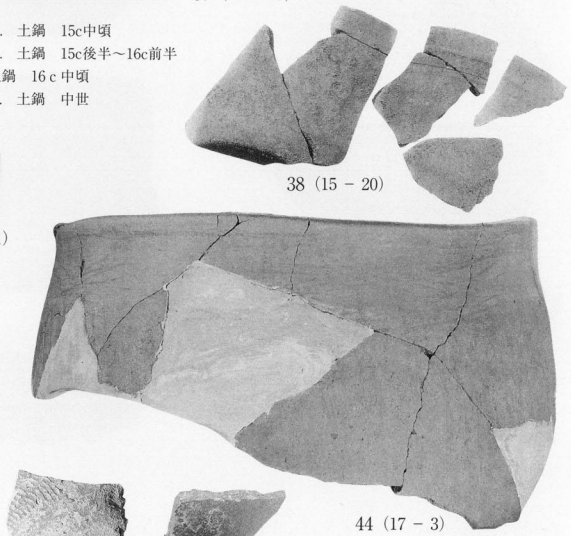
69. M2 セクション



1~4. かわらけ15~16c
 5~8. かわらけ15c末~16c
 9~13. かわらけ15c後半以降
 14~16. かわらけ15後半以降
 17・18. かわらけ近世 (18c?)



19~23. 土鍋 15c中頃
 24~33. 土鍋 15c後半~16c前半
 34. 土鍋 16c中頃
 35~37. 土鍋 中世



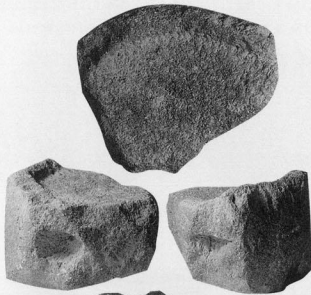
38. 瓦質搦鉢 在地 中世 40. 瓦質蓋(焙燃か火消蓋) 在地 近代
 39. 瓦質火鉢 中世 41. 土製円盤 中世 42 (17-1) 43 (17-2) 44. 土師質土器 火鉢類 近世~近代



18-1



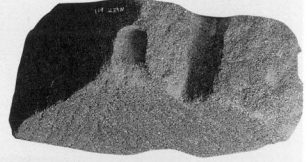
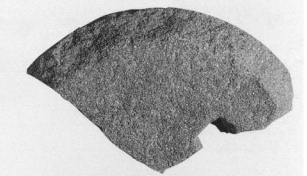
18-2



18-3



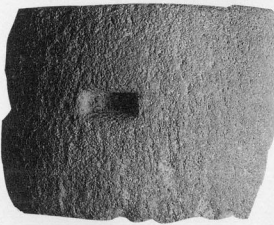
18-3



18-4



18-6



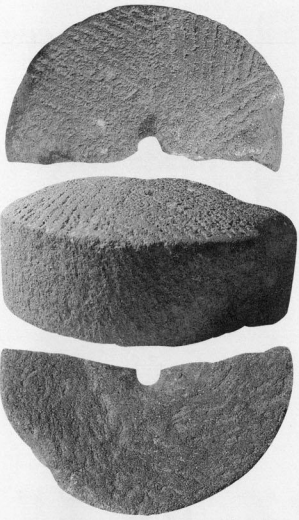
18-5



18-8



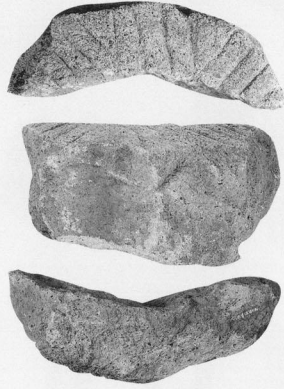
18-7



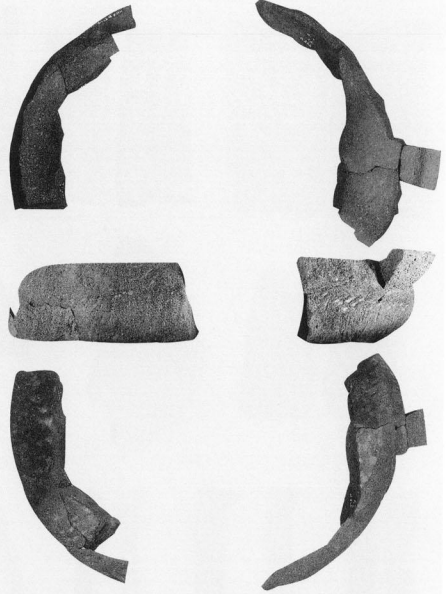
19 - 9



19 - 10

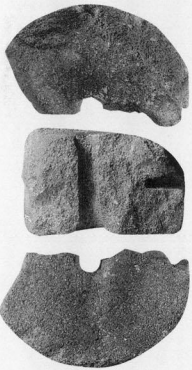


19 - 11

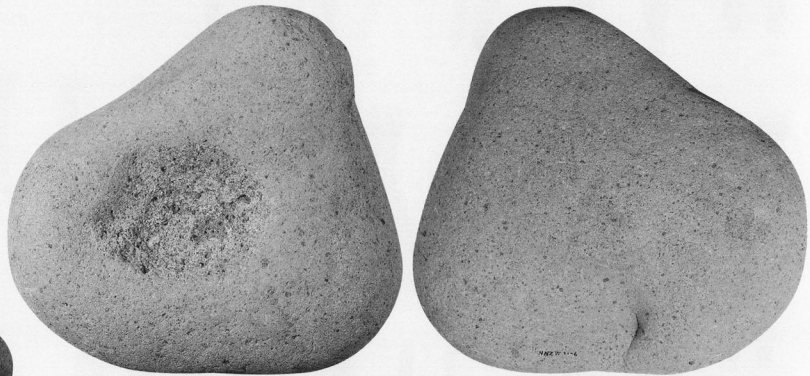


19 - 12

19 - 9 ~ 19 - 13 (1 : 6)



19 - 13



20 - 1



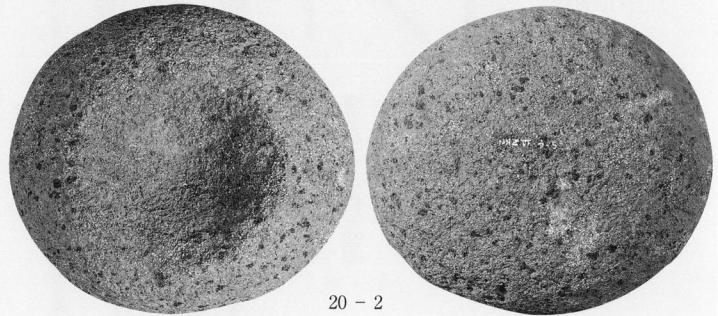
20 - 4



20 - 5

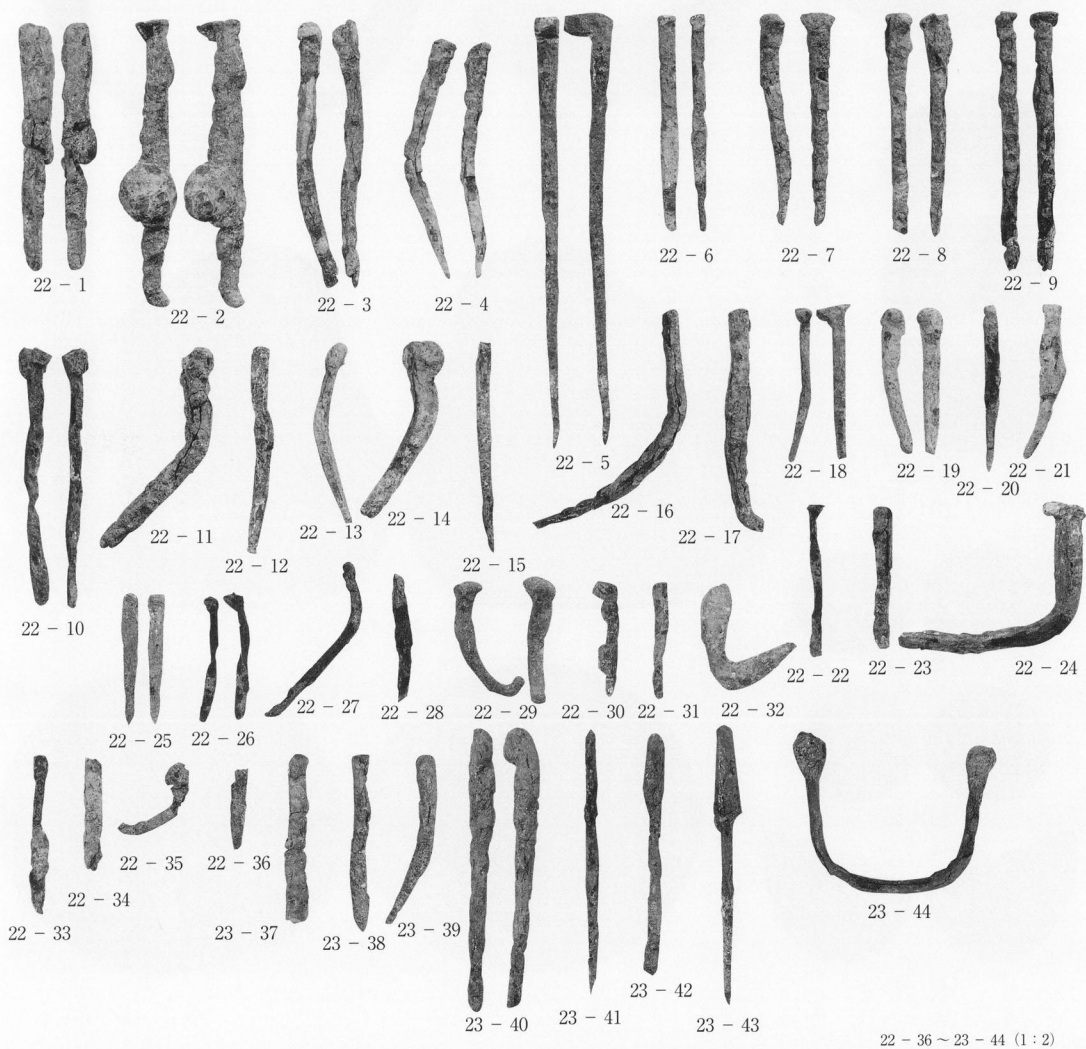
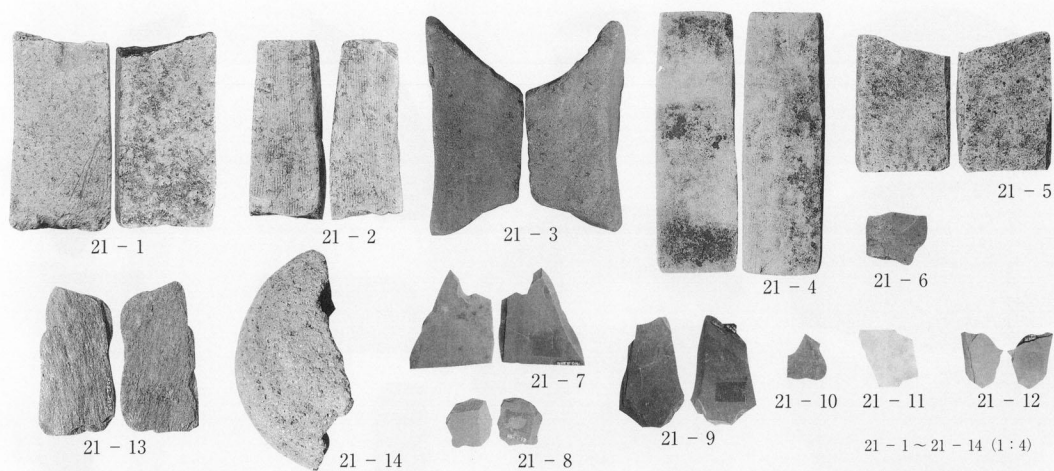


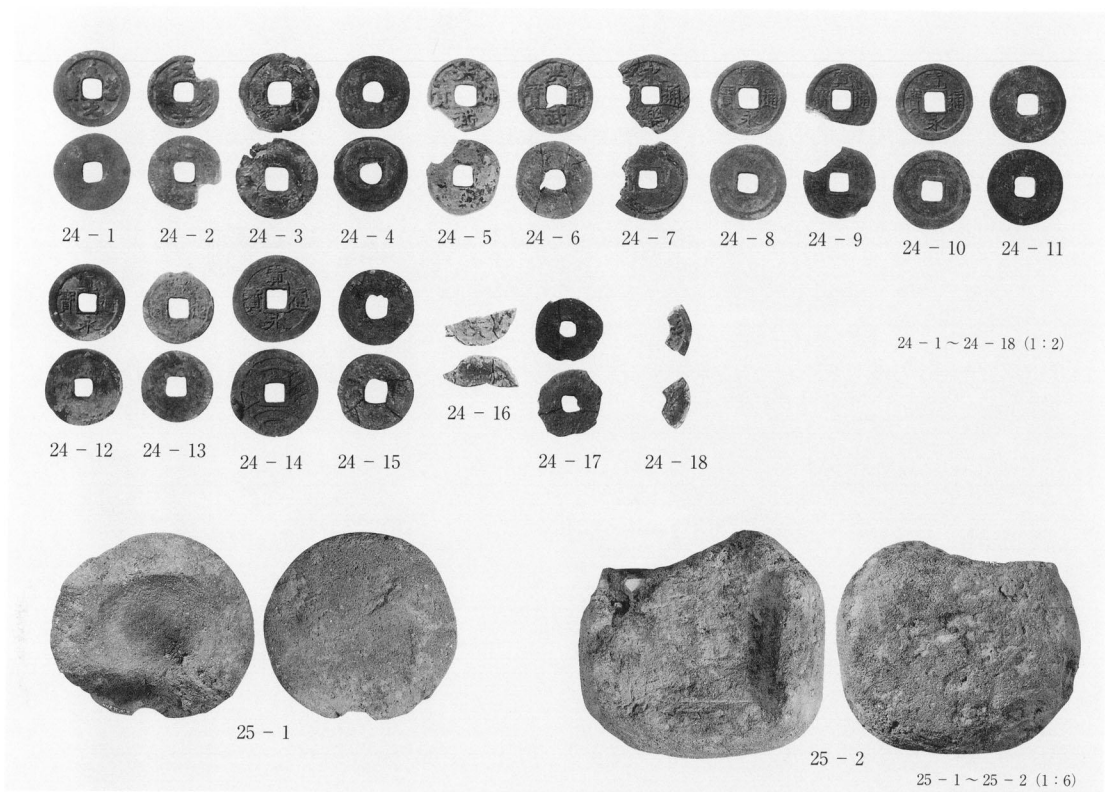
20 - 3



20 - 2

20 - 1 ~ 20 - 5 (1 : 4)

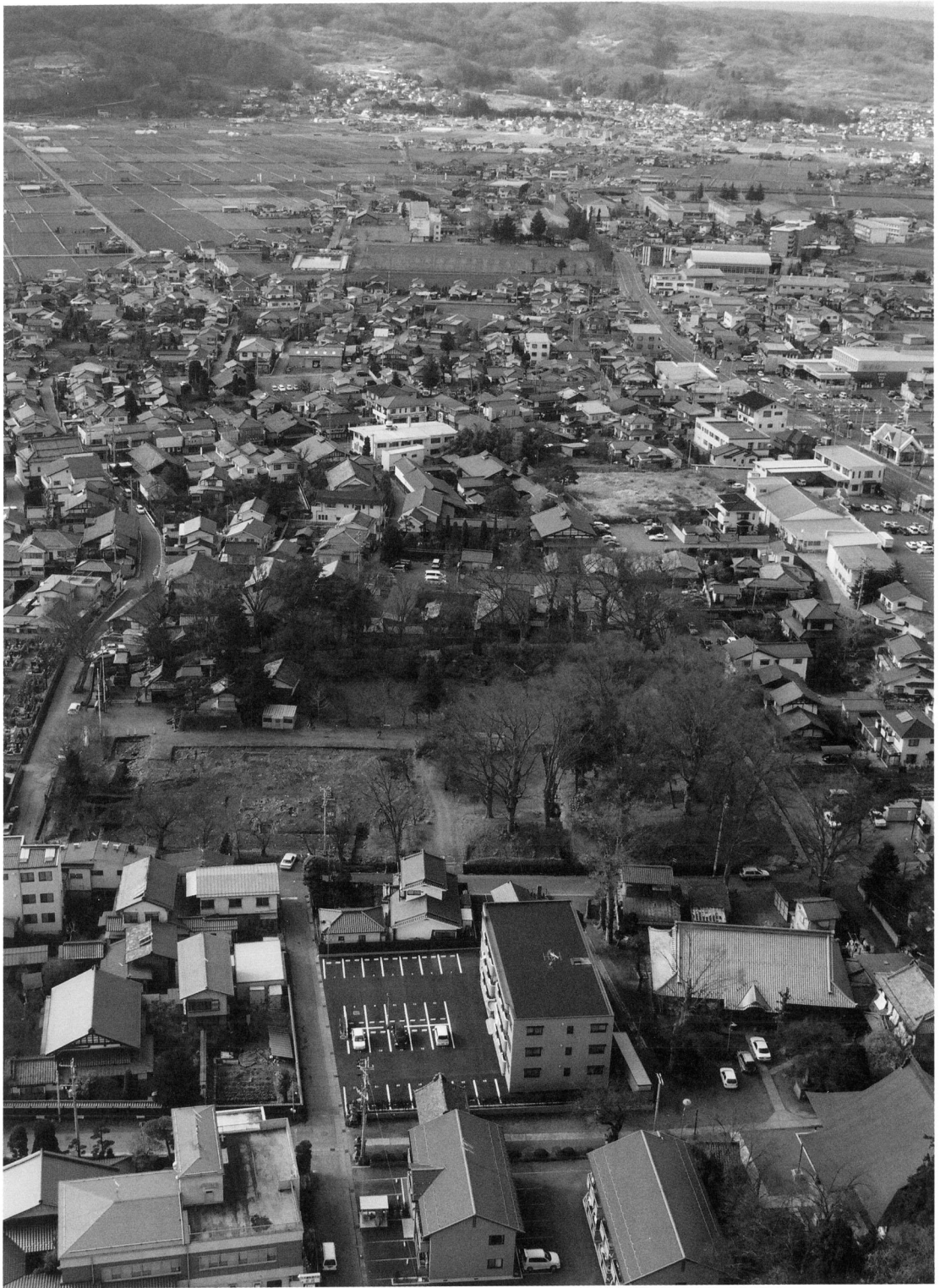




B 調査区 近景 (東より)



B 調査区 近景 (北より)



野沢館跡VI付近航空写真（東より）

報告書抄録

ふりがな 書名	のざわかんせき 野沢館跡Ⅵ
副書名	
巻次	
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第132集
編著者名	林 幸彦
編集機関	佐久市教育委員会
発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	20050331
作成機関ID	
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-73210
住所	長野県佐久市大字志賀 5953
ふりがな 遺跡名	のざわかんせき 野沢館跡Ⅵ
ふりがな 遺跡所在地	ながのけんさくしおおあざのざわあざいやしき 長野県佐久市大字野沢字居屋敷
市町村コード	
遺跡番号	425
北緯	36° 13' 21"
東経	138° 28' 13"
調査期間	20031117-20040302
調査面積	450
調査原因	野沢本町沿道整備土地区画整理事業
種別	館跡
主な時代	中世
遺跡概要	野沢館跡外郭の堀址・竪穴状遺構・土坑。青白磁・陶磁器・土鍋・臼・茶臼・古銭
特記事項	

佐久市埋蔵文化財調査報告書

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 第1集 『金井城跡』 | 第66集 『中西ノ久保遺跡Ⅱ 仲田遺跡 寺畑遺跡Ⅱ』 |
| 第2集 『市内遺跡発掘調査報告書1990』 | 第67集 『供養塚遺跡』 |
| 第3集 『石附窯址群Ⅲ』 | 第68集 『前藤部遺跡』 |
| 第4集 『大ふけ』 | 第69集 『高山遺跡Ⅰ・Ⅱ』 |
| 第5集 『立科F遺跡』 | 第70集 『観音堂遺跡』 |
| 第6集 『上曾根遺跡』 | 第71集 『市内遺跡発掘調査報告書1997』 |
| 第7集 『三貫畑遺跡』 | 第72集 『市道遺跡Ⅱ』 |
| 第8集 『瀧の下遺跡』 | 第73集 『西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳ』 |
| 第9集 『国道141号線関係遺跡』 | 第74集 『五里田遺跡』 |
| 第10集 『聖原遺跡Ⅱ』 | 第75集 『八風山遺跡群』 |
| 第11集 『赤座垣外遺跡』 | 第76集 『南近津遺跡』 |
| 第12集 『若宮遺跡Ⅱ』 | 第77集 『番屋前遺跡Ⅲ』 |
| 第13集 『上高山遺跡Ⅱ』 | 第78集 『蛇塚遺跡 蛇塚古墳』 |
| 第14集 『栗毛坂遺跡』 | 第79集 『四ツ塚遺跡Ⅰ』 |
| 第15集 『野馬久保遺跡』 | 第80集 『四ツ塚遺跡Ⅱ』 |
| 第16集 『石並城跡』 | 第81集 『薬師寺遺跡』 |
| 第17集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』(1月～3月) | 第82集 『市内遺跡発掘調査報告書1998』 |
| 第18集 『西曾根遺跡』 | 第83集 『下聖端遺跡Ⅳ』 |
| 第19集 『上芝宮』 | 第84集 『榛名平遺跡』 |
| 第20集 『下聖端遺跡Ⅲ』 | 第85集 『柳堂遺跡』 |
| 第21集 『金井城跡Ⅲ』 | 第86集 『市内遺跡発掘調査報告書1999』 |
| 第22集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』 | 第87集 『宮添遺跡』 |
| 第23集 『南上中原・南下中原遺跡』 | 第88集 『下曾根遺跡Ⅱ～Ⅶ 上芝宮遺跡Ⅱ～Ⅳ』 |
| 第24集 『上聖端遺跡』 | 第89集 『川原端遺跡』 |
| 第25集 『上久保田向Ⅳ』 | 第90集 『梨の木遺跡Ⅲ』 |
| 第26集 『藤塚古墳群・藤塚Ⅱ』 | 第91集 『西一本柳遺跡 中長塚Ⅰ・Ⅱ 松の木遺跡Ⅰ・Ⅱ』 |
| 第27集 『上久保田向Ⅲ』 | 第92集 『辻の前遺跡Ⅱ 中仲田遺跡Ⅱ』 |
| 第28集 『曾根新城遺跡Ⅴ』 | 第93集 『入高山遺跡』 |
| 第29集 『筒村遺跡B 山法師遺跡B』 | 第94集 『聖石遺跡』 |
| 第30集 『市内遺跡発掘調査報告書1992』 | 第95集 『市内遺跡発掘調査報告書2000』 |
| 第31集 『筒村遺跡A 山法師遺跡A』 | 第96集 『上木戸遺跡』 |
| 第32集 『東ノ割』 | 第97集 『久瀬添遺跡』 |
| 第33集 『聖原遺跡Ⅶ 下曾根遺跡Ⅰ 前藤部遺跡2』 | 第98集 『深堀Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ』 |
| 第34集 『西一本柳遺跡Ⅰ』 | 第99集 『中道遺跡Ⅱ』 |
| 第35集 『市内遺跡発掘調査報告書1993』 | 第100集 『野沢館跡Ⅲ』 |
| 第36集 『蛇塚B遺跡Ⅲ』 | 第101集 『深堀遺跡Ⅳ』 |
| 第37集 『西一本柳遺跡Ⅱ 中西ノ久保遺跡Ⅰ』 | 第102集 『円正坊遺跡Ⅳ』 |
| 第38集 『南下中原遺跡Ⅱ』 | 第103集 『聖原 -第1分冊-』 |
| 第39集 『中屋敷遺跡』 | 第104集 『聖石遺跡Ⅱ』 |
| 第40集 『寺畑遺跡』 | 第105集 『曾根城遺跡Ⅲ』 |
| 第41集 『曾根新城遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
上久保田向遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ
西曾根遺跡Ⅱ・Ⅲ』 | 第106集 『樋村遺跡Ⅱ』 |
| 第42集 『寄山』 | 第107集 『聖原 -第2分冊-』 |
| 第43集 『権現平遺跡 池端遺跡』 | 第108集 『市内遺跡発掘調査報告書2001』 |
| 第44集 『寺添遺跡』 | 第109集 『西一本柳遺跡Ⅷ』 |
| 第45集 『市内遺跡発掘調査報告書1994』 | 第110集 『佐久駅周辺土地区画整理事業
埋蔵文化財発掘調査報告書』 |
| 第46集 『濁り遺跡』 | 第111集 『上ノ城遺跡』 |
| 第47集 『上芝宮遺跡Ⅴ』 | 第112集 『西赤座』 |
| 第48集 『池端城跡』 | 第113集 『西一本柳遺跡Ⅸ』 |
| 第49集 『根々井芝宮遺跡』 | 第114集 『供養塚遺跡Ⅱ』 |
| 第50集 『藤塚遺跡Ⅲ』 | 第115集 『聖原 -第3分冊-』 |
| 第51集 『寺中遺跡 中屋敷遺跡Ⅱ』 | 第116集 『東久保遺跡Ⅱ・東久保古墳群1号墳・宮田遺跡Ⅱ』 |
| 第52集 『坪の内遺跡』 | 第117集 『東五里田遺跡』 |
| 第53集 『円正坊遺跡Ⅱ』 | 第118集 『東近津遺跡』 |
| 第54集 『市内遺跡発掘調査報告書1995』 | 第119集 『野沢館跡Ⅳ』 |
| 第55集 『番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱ』 | 第120集 『市内遺跡発掘調査報告書2002』 |
| 第56集 『聖原遺跡Ⅳ』 | 第121集 『後家山遺跡 東久保遺跡 宮田遺跡Ⅰ・Ⅲ』 |
| 第57集 『高師町遺跡Ⅱ』 | 第122集 『聖原Ⅳ』 |
| 第58集 『下穴虫遺跡Ⅰ』 | 第123集 『西村中遺跡』 |
| 第59集 『市内遺跡発掘調査報告書1996』 | 第124集 『市内遺跡2003』 |
| 第60集 『曾根城遺跡Ⅱ』 | 第125集 『西一本柳遺跡ⅩⅡ』 |
| 第61集 『割地遺跡』 | 第126集 『聖原遺跡 -第5分冊-』 |
| 第62集 『野馬久保遺跡Ⅱ』 | 第127集 『西一本柳遺跡Ⅹ』 |
| 第63集 『西久保遺跡Ⅲ』 | 第128集 『野沢館跡Ⅶ』 |
| 第64集 『梨の木遺跡Ⅳ』 | 第129集 『戸坂遺跡Ⅲ』 |
| 第65集 『中宿遺跡』 | 第130集 『平馬塚遺跡群 平馬塚遺跡Ⅰ』 |
| | 第131集 『大奈良遺跡』 |

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第132集

野沢館跡Ⅵ

2005年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市大字中込 3056

(文化財課

〒385-0006 長野県佐久市大字志賀 5953)

TEL0267-68-7321

印刷所 株式会社ダンバラ印刷